

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教 科	国語	科 目	論理国語
学年・類型	3 学年・全	単位数	2
教科書	精選論理国語（三省堂）（15 三省堂 論国703）		
副教材	国語総合便覧 第一学習社 現代文単語集 宅習用問題集		
科目目標	・実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。 ・論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
学習方法	教科書や副教材を中心に、知識を確実に身に付ける。また、課題探究学習やグループワーク等を通して、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を養う。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けている。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養っている。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①定期考査（知識・技能の定着状況を評価する問題を出題） ②課題考査 ③確認テスト ④授業への取組状況	①定期考査（思考・判断・表現について評価する問題を出題） ②課題考査 ③確認テスト ④課題の内容 ⑤授業への取組状況	①課題やノートへの取組状況や提出状況 ②授業への取組状況

各学期及び学年の成績算出方法について
観点別評価 知識・技能 40％ 思考・判断・表現 40％ 主体的に学習に取り組む態度 20％

学 期	学習内容 (単元名)	評価規準 (到達目標B規準) と到達度チェック (自己評価)			評価方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	「対話」の言葉をつくる	□ ・言葉には、言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。((1)ア)	□ ・情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえている。(書イ)	□ ・進んで言葉そのものを認識したり説明したりすることを可能にする言葉の働きを理解し、学習の見通しをもって、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら自分の立場や論点を明確にし、自分の考えをまとめようとしている。	[知 技] ①③ [思 判 表] ①③④ [主] ①②
	落語の中の経済学	□ ・論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)イ)	□ ・実社会や学術的な学習の基礎に関する事柄について、書き手の立場や論点などの様々な観点から情報を収集、整理して、目的や意図に応じた適切な題材を決めている。(書ア)	□ ・進んで論証したり学術的な学習の基礎を学んだりするために必要な語句の量を増し、学習の見通しをもって、様々な観点から情報を収集して適切な題材を決め、自分の考えを論述しようとしている。	[知 技] ①② [思 判 表] ①②④ [主] ①②
2 学 期	「文化が違う」とは何を意味するのか?	□ ・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。((1)エ)	□ ・人間、社会、自然などについて、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付けて、新たな観点から自分の考えを深めている。(読力)	□ ・進んで、文章の構成や展開の仕方について理解を深め、学習課題に沿って、文章の内容や解釈を多様な論点や異なる価値観と結び付け、自分の考えを論述しようとしている。	[知 技] ①③ [思 判 表] ①③④ [主] ①②
	コンクリートの時代	□ ・文章の種類に基づく効果的な段落の構造や論の形式など、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。((1)エ)	□ ・情報の妥当性や信頼性を吟味しながら、自分の立場や論点を明確にして、主張を支える適切な根拠をそろえている。(書イ)	□ ・進んで文章の構成や展開の仕方について理解を深め、学習の見通しをもって、情報の妥当性や信頼性を吟味しながら自分の立場や論点を明確にし、自分の考えをまとめて批評し合おうとしている。	[知 技] ①② [思 判 表] ①②④ [主] ①②

	共通テスト対策				
3 学 期	・共通テスト対策 ・特別時間割による授業				

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教科	国語	科目	文学国語
学年・類型	3学年・文系	単位数	1
教科書	探究 文学国語（桐原書店）（212桐原 文国711）		
副教材	国語総合便覧 第一学習社 現代文単語集 宅習用問題集		
科目目標	・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
学習方法	教科書や副教材を中心に、知識をしっかりと身に付ける。また、課題探究学習やグループワーク等を通して、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を養う。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができる。	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養っている。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①定期考査（知識・技能の定着状況を評価する問題を出題） ②課題考査 ③確認テスト ④授業への取組状況	①定期考査（思考・判断・表現について評価する問題を出題） ②課題考査 ③確認テスト ④課題の内容 ⑤授業への取組状況	①課題やノートへの取組状況や提出状況 ②授業への取組状況

各学期及び学年の成績算出方法について
観点別評価 知識・技能 40％ 思考・判断・表現 40％ 主体的に学習に取り組む態度 20％

学 期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価方法 （学習指導要 領に対応）
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	愛のサーカス ・巧みに構築された作品世界を読み味わいながら、その根底に配置された寓意や主題を読み取る。	☐ ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ☐ ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。	☐ ・語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。 ☐ ・設定した題材に関連する複数の作品などを基に、自分のものの見方、感じ方、考え方を深めている。 ☐ ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。	☐ ・文の内容を踏まえて二重構造について話し合い、自分の考えを深めようとしている。	[知技] ①③ [思判表] ①③④ [主] ①②
	畜犬談 ・独特の雰囲気を持つ一人称小説を読み、作者ならではの語りの妙を味わう。また、それぞれの登場人物の心情を推し量ることを通じて、一人称小説の作品構造について考えを深める。	☐ ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ☐ ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。	☐ ・語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈している。 ☐ ・「畜犬談」の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。	☐ ・粘り強く登場人物の言動や心理を表現に即して読み取り、学習課題に沿ってさまざまな立場から現代社会における人間関係について考え、話し合おうとしている。	[知技] ①③ [思判表] ①③④
2 学 期	舞姫 ・擬古文を用いた近代小説を読み、小説の多様な表現形式に触れるとともに、背景にある時代や文化の状況も踏まえて作品を理解する。	☐ ・「舞姫」における文体の特徴や修辭などの表現の技法について、体系的に理解し使用している。 ☐ ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 ☐ ・文学的な文章を読むことを通じて、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。	☐ ・文語体の特徴や修辭の働きなどを考慮して、読み手を引き付ける独創的な短編小説になるよう工夫している。 ☐ ・文章の構成や展開、表現の仕方などについて、伝えたいことや感じてもらいたいことが伝わるように書かれているかなどを吟味して、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直している。	☐ ・粘り強く登場人物の言動や心理を表現に即して読み取り、学習課題に沿って作者が描こうとした意図について考え、内容紹介文を書こうとしている。	[知技] ①②③ [思判表] ①②③ [主] ①②

	共通テスト対策				[知技] ①③ [思判表] ①③④ [主] ①②
3 学期	・共通テスト対策 ・特別時間割による授業				

令和7年度（2027年度）八代高等学校シラバス

教科	国語	科目	古典探究
学年・類型	3学年・全	単位数	2
教科書	精選古典探究（第一学習社）（183 第一 古探717・718）		
副教材	国語総合便覧 第一学習社 古語単語集 宅習用問題集		
科目目標	・生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 ・論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 ・言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。		
学習方法	教科書や副教材を中心に、知識を確実に身に付ける。また、課題探究学習やグループワーク等を通して、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を養う。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができる。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通して先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養っている。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①定期考査（知識・技能の定着状況を評価する問題を出題） ②課題考査 ③確認テスト ④授業への取組状況	①定期考査（思考・判断・表現について評価する問題を出題） ②課題考査 ③確認テスト ④課題の内容 ⑤授業への取組状況	①課題やノートへの取組状況や提出状況 ②授業への取組状況

各学期及び学年の成績算出方法について
観点別評価 知識・技能 40％ 思考・判断・表現 40％ 主体的に学習に取り組む態度 20％

学 期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価方法 （学習指導要 領に対応）
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	説話 宇治拾遺物語 【袴垂、保昌に合ふこと】 ・説話という文章の種類や古典特有の表現に注意して、構成や展開、内容を的確に捉える。	☐ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ア) ☐ ・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。((2)イ)	☐ ・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。(A(1)ア) ☐ ・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。(A(1)イ)	☐ 積極的に作品の背景を踏まえながら日記を読み、今までの学習を生かして、内容の解釈を深めたり、作品の特徴を理解したりしようとしている。	【知技】 ①③ 【思判表】 ①③④ 【主】 ①②
	逸話 【不若人有其宝】 ・逸話という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉える。 ・書き手の考えや目的を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価する。	☐ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ☐ ・古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。 ☐ ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。 ☐ ・古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりについて理解を深めている。	☐ ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。 ☐ ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。 ☐ ・「読むこと」において、作品の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえながら古典などを読み、その内容の解釈を深め、作品の価値について考察している。 ☐ ・「読むこと」において、古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。	☐ 積極的に本文の内容や構成、展開を的確に捉え、今までの学習を生かして、登場人物の行動や心情を読み取り、人物像についてまとめようとしている。	【知技】 ①②③ 【思判表】 ①②③ 【主】 ①②
	随筆 枕草子 【宮に初めて参りたるころ】 ・日記的章段を読んで、作者と中宮定子との関係性を読み解くとともに、当時の宮廷生活に関する理解を深める。	☐ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。((1)ア) ☐ ・古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。((2)ア) ☐ ・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。((2)イ)	☐ ・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。((1)ア) ☐ ・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。(A(1)イ)	☐ ・学習の見通しをもって日記的な随筆の章段を読み、進んで登場人物同士の関係性を読み解こうとしている。 ☐ ・本文の背景にある宮廷生活の様子を積極的に理解し、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。	【知技】 ①②③ 【思判表】 ①②③ 【主】 ①②

	諸家の文章 【五柳先生伝】 ・ 仮想の人物に自分自身を投影して自叙風に書かれた作品を読み、作者が理想として抱いた人物像を読み取る。	☐ ・ 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ア) ☐ ・ 古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。(2)ア) ☐ ・ 古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めている。(2)イ)	☐ ・ 文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。(A(1)ア) ☐ ・ 必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。(A(1)ウ) ☐ ・ 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。(A(1)カ)	☐ ・ 積極的に文章を読み、五柳先生の描写を通してうかがえる作者の理想の人物像について説明しようとしている。	【知技】 ①③ 【思判表】 ①③④ 【主】 ①②
2 学 期	物語 大鏡 【三舟の才】 【菅原道真の左遷】 ・ 歴史物語の列伝に記載されたさまざまなエピソードを読んで、歴史に残された人々の姿に触れる。	☐ ・ 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ア) ☐ ・ 古典の文の成分の順序や照応、文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。(1)ウ) ☐ ・ 古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。(2)ア) ☐ ・ 古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。(2)イ)	☐ ・ 文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。(A(1)ア) ☐ ・ 文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。(A(1)イ) ☐ ・ 必要に応じて書き手の意図を捉えて内容を解釈し、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。(A(1)ウ)	☐ ・ 学習課題に沿って話の展開や構成を整理し、進んで内容の理解を深めようとしている。 ☐ ・ 本文の叙述をふまえて、粘り強く書き手の考えや意図を捉えようとしている。	【知技】 ①②③ 【思判表】 ①②③ 【主】 ①②
	諸家の文章 【賢母辞拾遺】 【売柑者言】 ・ 随想という文章の種類をふまえて、構成や展開を的確に捉える。 ・ 書き手の考えや目的を捉えて内容を解釈し、構成や表現について評価する。	☐ ・ 古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ア) ☐ ・ 古典などを読むことを通して、我が国の文化の特質や、我が国の文化と中国など外国の文化との関係について理解を深めている。(2)ア) ☐ ・ 古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めている。(2)イ)	☐ ・ 文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。(A(1)ア) ☐ ・ 必要に応じて書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈するとともに、文章の構成や展開、表現の特色について評価している。(A(1)ウ) ☐ ・ 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。(A(1)カ)	☐ ・ 積極的に随想を読んで、大金の拾い主と落とし主の心理をそれぞれ整理するとともに、両者の主張を裁いた聶以道の理屈を説明しようとしている。	【知技】 ①③ 【思判表】 ①③④ 【主】 ①②

	去来抄 「行く春を」 「下京や」 ・松尾芭蕉とその門人たちの、句作をめぐる具体的な苦心や理念を読み取り、俳諧に対する理解を深める。	☐ ・古典に用いられている語句の意味や用法を理解し、古典を読むために必要な語句の量を増すことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。(1)ア) ☐ ・古典の作品や文章に表れている、言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。(1)エ) ☐ ・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。(2)イ)	☐ ・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。(A(1)ア) ☐ ・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。(A(1)イ)	☐ ・学習の見通しをもって俳論を読み、本文の叙述に即して、粘り強く内容の理解を深めようとしている	[知技] ①②③ [思判表] ①②③ [主] ①②
	共通テスト対策				
3 学期	・共通テスト対策 ・特別時間割での授業				

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教科	地理歴史	科目	地理探究
学年・類型	3年・全	単位数	4
教科書	地理探究（東京書籍）		
副教材	最新地理図表GEO（第一学習社） 新地理要点ノート（啓隆社）		
科目目標	社会的事象の地理的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。		
学習方法	教科書・副教材を中心に、基本的な知識・技能を身につける。さらに地図や資料の読み取りと分析や活用、ペアワークやグループ活動などとおして、思考・判断・表現や主体的に学習に取り組む態度を養う。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○地図や地理情報システムなどの読み取りを通して、地球的な視野から地理的事象の空間的な規則性、傾向性や関連する課題の発生要因について理解することで、現代世界の諸事象の地理的認識を深めている。 ○地図や地理情報システムなどの読み取りを通して、世界諸地域の特性とそこで発生する諸課題について理解することで、現代世界の諸地域についての地理的認識を深めている。 ○調査、討論、発表などの探究的な学習を通して、現代世界における日本の現状について理解することで、望ましい将来像についての認識を深めている。	○地理的事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりすることができる。 ○考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりすることができる。	○知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身につけたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行う中で、自らの学習を調整しようとしている。 ○よりよい社会の実現を視野に、世界諸地域や日本において見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。 ○地理的な課題への多面的・多角的な考察や深い理解を通して市民としての自覚を持つとともに、社会へ参画することへの意識が高まっている。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①定期考査 ②授業中の取組	①定期考査 ②提出課題 ③授業中の取組	①提出課題 ②授業中の取組

各学期及び学年の成績算出方法について
観点別評価 ① 知識・技能 40% ② 思考・判断・技能 40% ③ 主体的に学習に取り組む態度 20%

学 期	学習内容	評価基準（到達目標B基準）と到達度チェック（自己評価）			評価 方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	第1編 第1章 自然環境	☐ 地図や景観写真、衛星画像、模式図などの読み取りを通して、人間の生活の基盤である地形の重要性について認識するとともに、それを空間的規模と形成要因、人間生活との関係に着目しながら理解している。 ☐ 模式図や主題図などを用いて、地球規模でみられる気温と降水量の分布の特徴とそれが生じる原因についての理解を踏まえ、気候の特徴について理解している。 ☐ 雨温図やハイサーグラフの作成・読み取り、景観写真の読み取りなどを通して、気候区の特徴となる気温と降水量の地域ごとの違いについて、各々の気候区の自然環境の特徴を踏まえて認識するとともに、人間生活との関係について理解している。 ☐ 主題図や模式図、写真などを用いて、地球規模での環境問題が深刻化している背景・要因について多面的・多角的に理解している。	☐ 世界の大地形や小地形の形成過程を考察し、その特徴を踏まえながら、人間生活との関係について表現している。 ☐ 気候の特徴と植生、土壌との関係について多面的・多角的に考察している。 ☐ 気候区の特徴となる気温と降水量の地域ごとの違いについて、各々の気候区の自然環境の特徴を踏まえて考察するとともに、人間生活との関係について表現している。 ☐ 地球規模での環境問題の現状について考察するとともに、有限な地球環境を持続的に利用するための取り組みについて表現している。	☐ 地形と人間生活との関係について、その形成過程や特徴を踏まえながら、関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。 ☐ 気候の特徴と植生、土壌との関係について、関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。 ☐ 各気候区の自然環境の特徴と人間生活との関係について関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。 ☐ 地球規模での環境問題を踏まえ、有限な地球環境を持続的に利用するための取り組みについて関心と課題意識を高め、それらを意欲的に追究し、とらえようとしている。	知 ①② 思 ①② ③ 主 ①②

2 学 期	第2章 産業と資源	□ 主題図や模式図、グラフや写真などを用いて、資源の分布や消費の地域的な偏りが国際取引を成立させていることを踏まえた上で、各国の掲げる資源ナショナリズムやエネルギー政策の違いが国際対立の一因になっていることを理解している。 □ 主題図や模式図、グラフや写真などを用いて、農林水産業の立地とその形態について地域性との関わりから把握するとともに、アグリビジネスの活動が国境を超えて産地と消費地とを結びつけていることを理解している。 □ 主題図や模式図、グラフや写真などを用いて、工業立地の特徴とその変化の動向について、業種の違いや国際分業との関係から把握するとともに、知識集約化の進む工業の新しい展開や、日本の工業の変化と課題について理解している。	□ 農林水産業の立地とその形態、アグリビジネスの活動を通した国境を超えた産地と消費地との結びつきについて多面的・多角的に考察している。 □ 資源の国際取引を成立させている背景について資源の分布や消費の地域的な偏りとの関わりから考察した上で、各国の掲げる資源ナショナリズムやエネルギー政策によって生じる国際対立の解決策について表現している。 □ 工業立地の特徴とその変化の動向について、業種の違いや国際分業との関係から考察するとともに、知識集約化の進む工業の新しい展開や、日本の工業の変化と課題について多面的・多角的に表現している。	□ 農林水産業の立地とその形態、アグリビジネスの活動を通した国境を超えた産地と消費地との結びつきについて関心と課題意識を高め、意欲的に追究し、とらえようとしている。 □ 資源の国際取引を成立させている背景について資源の分布や消費の地域的な偏りとの関わりから関心と課題意識を高め、意欲的に追究し、とらえようとしている。 □ 工業立地の特徴とその変化の動向とともに、知識集約化の進む工業の新しい展開や、日本の工業の変化と課題について関心と課題意識を高め、意欲的に追究し、とらえようとしている。	知 ①② 思 ①② ③ 主 ①②
-------------	-----------	---	--	---	------------------------------------

2 学 期	第3章 交通・通信、貿易、観光	☐ 主題図や模式図、グラフや写真などを用いて、交通・通信の発達による世界の結び付きの現状について多様な手段の特徴や地域特性と関連づけて把握するとともに、交通・通信の発達により生じる問題の背景・要因、解決に向けての取り組みについて理解している。 ☐ 主題図や模式図、グラフなどを用いて、貿易の発達が世界をグローバルにまたは地域ごとに結び付けてきたことを把握するとともに、それによって生じる問題の背景・要因、解決へ向けての取り組みについて理解している。 ☐ 主題図やグラフなどを用いて、観光の地理的展開について交通・通信の発達や地域特性、多様な形態との関わりから把握するとともに、それによって生じる問題の背景・要因、解決へ向けての取り組みについて理解している。	☐ 交通・通信の発達による世界の結び付きの現状について多様な手段の特徴や地域特性と関連づけて考察するとともに、交通・通信の発達により生じる問題の背景・要因、解決に向けての取り組みについて表現している。 ☐ 貿易の発達が世界をグローバルにまたは地域ごとに結び付けてきたことを考察するとともに、それによって生じる問題の背景・要因、解決へ向けての取り組みについて表現している。 ☐ 観光の地理的展開について交通・通信の発達や地域特性、多様な形態との関わりから考察するとともに、それによって生じる問題の背景・要因、解決へ向けての取り組みについて表現している。	☐ 交通・通信の発達による世界の結び付きの現状、交通・通信の発達により生じる問題の背景・要因、解決に向けて関心と課題意識を高め、意欲的に追究し、とらえようとしている。 ☐ 貿易の発達による世界の結び付きや、それによって生じる問題の背景・要因、解決へ向けての取り組みについて関心と課題意識を高め、意欲的に追究し、とらえようとしている。 ☐ 観光の地理的展開とそれによって生じる問題の背景・要因、解決へ向けての取り組みについて関心と課題意識を高め、意欲的に追究し、とらえようとしている。	知 ①② 思 ①② ③ 主 ①②
	第4章 人口、村落・都市	☐ 主題図やグラフなどを用いて、人口分布と人口増加の地域的傾向について把握するとともに、それらに影響を与える人口転換や人口移動について理解している。 ☐ 航空写真や地形図、主題図やグラフ、模式図などを用いて、村落・都市の機能や	☐ 人口分布と人口増加の地域的傾向とそれらに影響を与える人口転換や人口移動について多面的・多角的に考察している。 ☐ 村落・都市の機能や形態、分布の特徴、都市システム、都市内部の	☐ 人口分布と人口増加の地域的傾向とそれらに影響を与える人口転換や人口移動について関心と課題意識を高め、意欲的に追究し、とらえようとしている。 ☐ 村落・都市の機能や形態、分布の特徴、都市システム、都市内部の機能分	知 ①② 思 ①② ③ 主 ①②

	形態、分布の特徴、都市システム都市内部の機能分化や大都市圏の発展過程について多面的・多角的に理解している。	機能分化や大都市圏の発展過程について多面的・多角的に考察している。	化や大都市圏の発展過程について関心と課題意識を高め、意欲的に追究し、とらえようとしている。	
第5章 生活文化、民族・宗教	☐ 主題図や写真などを用いて、文化と環境との相互関係や文化が変容する理由について把握するとともに、衣食住などの生活文化が環境との相互作用の中で形成され、歴史的に変容することを理解している。 ☐ 主題図や写真などを用いて、民族・言語・国家の相互関係について把握するとともに、文化としての宗教とその多様性について理解している。	☐ 文化と環境との相互関係や文化が変容する理由、衣食住などの生活文化が環境との相互作用の中で形成され、歴史的に変容することを、多面的・多角的に考察している。 ☐ 民族・言語・国家の相互関係について考察するとともに、文化としての宗教とその多様性についての的確に表現している。	☐ 文化と環境との相互関係や文化が変容する理由、衣食住などの生活文化が環境との相互作用の中で形成され、歴史的に変容することについて関心と課題意識を高め、意欲的に追究し、とらえようとしている。 ☐ 民族・言語・国家の相互関係、文化としての宗教とその多様性について関心と課題意識を高め、意欲的に追究し、とらえようとしている。	知 ①② 思 ①② ③ 主 ①②
第2編 現代世界の地誌的考察 第1章 現代世界の地域区分 第2章 現代世界の諸地域	☐ 主題図などを用いて、地域区分の方法や地域の概念、地域区分の意義について理解している。 ☐ 主題図やグラフ、写真などを用いて、諸地域の産業や地域格差、文化などのさまざまな事象を項目ごとに整理して考察することを通して地域理解を深めている。	☐ 地域の共通点や差異、分布などに着目して、地域のとらえ方について多面的・多角的に考察している。 ☐ 諸地域の産業や地域格差、文化などのさまざまな事象を項目ごとに整理し、考察している。	☐ 地域の共通点や差異、分布などに着目して、地域のとらえ方について関心と課題意識を高め、意欲的に追究し、とらえようとしている。 ☐ 諸地域の産業や地域格差、文化などのさまざまな事象について関心と課題意識を高め、意欲的に追究し、とらえようとしている。	知 ①② 思 ①② ③ 主 ①②
第3編 現代世界と日本の国土像 第1章 持続可能な国土像の探究	☐ 「主体的・対話的な学習方法」を駆使しながら、地球規模の視点で日本が抱える地理的課題について理解する。	☐ 地球規模の視点で日本が抱える地理的課題とその解決の方向性について考え、これからの日本の持続可能な国土像について探究している。	☐ 日本が抱える地理的課題とその解決の方向性、これからの日本の持続可能な国土像について関心と課題意識を高め、意欲的に追究し、とらえようとしている。	知 ①② 思 ①② ③

3 学 期	共通テスト対策 個別学力試験対策				主 ①②
-------------	---------------------	--	--	--	---------

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教科	地理歴史科	科目	日本史探究
学年・類型	3年・文理	単位数	4
教科書	詳説日本史探究（山川出版社）		
副教材	新詳日本史（浜島書店） 実力トレーニング日本史（啓隆社） 詳述日本史史料集（実教出版）		
科目目標	(1) わが国の歴史の展開を、世界史的視野に立って総合的に考察し、わが国の文化と伝統の特色についての認識を深めることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる「日本人」としての資質を養う。 (2) 歴史を考察する基本的な方法を理解するとともに、主題を設定して追究する学習、地域社会にかかわる学習を通して、歴史への関心を高め、歴史的な見方や考え方を身につける。		
学習方法	教科書・副教材を中心に、基本的な知識・技能を身につける。さらに史料解釈・論述課題・ペアワークなどをとおして、思考・判断・表現や主体的に学習に取り組む態度を養う。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
我が国の歴史を、世界史的視野に立ち、政治、経済、社会、文化、国際環境など歴史を構成する要素を総合した幅広い見方で大きく把握する。その上で、歴史用語の基本的な知識を身につけるとともに、歴史資料を正しく読み取る力を身につける。	諸事象の本質をその歴史的な形成・展開の過程の実証的な考察によってとらえる歴史的な見方や考え方を培うと同時に、各時代の国家・社会の特色や時代の変遷に関わる総合的な考察を通じて、我が国の文化がどのような特色をもち、どのような伝統が形成されてきたかについての認識を深める。	提示された課題学習や自発的な学習活動を通じて、歴史的な思考力の育成を積極的に図るとともに、国際社会に主体的に生き平和的で民主的な国家・社会を形成する日本国民としての自覚と資質を養う。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①定期考査 ②確認テスト ③授業課題 （レポートやスライドなど）	①定期考査 ②授業課題 （レポートやスライドなど）	①授業課題 （レポートやスライドなど） ②単元の振り返りシート

各学期及び学年の成績算出方法について
観点別評価 ① 知識・技能 40% ② 思考・判断・技能 40% ③ 主体的に学習に取り組む態度 20%

学 期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価 方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	第1章 日本文化のあけぼの	☐ 旧石器文化から縄文文化への変化、弥生文化の成立などを基に、黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成、原始社会の特色を理解している。	☐ 自然環境と人間の生活の関わり、中国大陆・朝鮮半島などアジア及び太平洋地域との関係、狩猟採集社会から農耕社会への変化などに着目して、環境への適応と文化の形成について、多面的・多角的に考察し、表現している。	☐ 旧石器時代・縄文時代・弥生時代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を示している。	知① 思① 主① 知② 思② 主② 知③
	第2章 古墳とヤマト政権	☐ 国家の形成と古墳文化の成立過程などを基に、古代の政治・社会や文化の特色を理解している。また、ヤマト政権による国家の形成過程について、東アジア世界との関係を踏まえて考察している。	☐ 中国大陆・朝鮮半島との関係と政治や文化への影響などに着目して、小国の形成と連合、古代の国家の形成過程について、多面的・多角的に考察し、表現している。 ☐ ヤマト政権の展開や、渡来人によって伝えられた文化に着目して、古墳時代の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現している。	☐ ヤマト政権の成立と古墳文化に関わる諸事象について、課題を主体的に探究しようとする態度を示している。	知① 思① 主① 知② 思② 主② 知③
	第3章 律令国家の形成	☐ 律令体制の成立過程と諸文化の形成などを基に、古代の政治・社会や文化の特色を理解している。	☐ 中国大陆・朝鮮半島との関係、隋・唐など中国王朝との関係と政治や文化への影響などに着目して、主題を設定し、古代の国家の形成過程について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の面期などを根拠を示して表現している。 ☐ 律令国家形成期の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現している。	☐ 律令政治の導入と、それにながら社会の変化について、課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察を通して深い理解を求めている。	知① 思① 主① 知② 思② 主② 知③
	第4章 貴族政治の展開	☐ 貴族政治の展開、平安期の文化、地方支配の変化や武士の出現などを基に、律令体制の再編	☐ 地方の諸勢力の成長と影響、東アジアとの関係の変化、社会の変化と文化との関係などに着目	☐ 平安時代の国家・社会の変容について、課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに	知① 思① 主①

		と変容、古代の社会と文化の変容を理解している。また、藤原氏による摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察している。	して、主題を設定し、古代の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	に、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深めようとしている。	知② 思② 主② 知③
第5章 院政と武士の躍進	☐ 貴族政治の変容と武士の政治進出、土地支配の変容などを基に、古代から中世への時代の転換を理解している。	☐ 権力の主体の変化、東アジアとの関わりなどに着目して、古代から中世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現している。 ☐ 時代の転換に着目して、中世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現している。	☐ 貴族政治の変容や武家政権の成立、当該期の世界との関わりについて、課題を主体的に探究しようとする態度を示している。	知① 思① 主① 知② 思② 主② 知③	
第6章 武家政権の成立	☐ 武家政権の成立と展開、産業の発達、宗教や文化の展開などを基に、武家政権の伸張、社会や文化の特色を理解している。	☐ 公武関係の変化、宋・元（モンゴル帝国）などユーラシアとの交流と経済や文化への影響などに着目して、主題を設定し、中世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、歴史に関わる諸事象の解釈や歴史の画期などを根拠を示して表現している。	☐ 武家政権の成立と展開、鎌倉時代の産業・文化の発展、公武関係の変化、ユーラシアとの交流などについて、課題を主体的に探究しようとする態度を示している。	知① 思① 主① 知② 思② 主② 知③	
第7章 武家社会の成長	☐ 武家政権の変容、日明貿易の展開と琉球王国の成立、村落や都市の自立、多様な文化の形成や融合などを基に、地域権力の成長、社会の変容と文化の特色を理解している。	☐ 社会や経済の変化とその影響、東アジアの国際情勢の変化とその影響、地域の多様性、社会の変化と文化との関係などに着目して、主題を設定し、中世の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現している。	☐ 中世の国家や社会の変容に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を示している。	知① 思① 主① 知② 思② 主② 知③	

2 学 期	第8章 近世の幕開け	☐ 織豊政権の政治・経済政策、貿易や対外関係などを基に、中世から近世への時代の転換を理解している。また、大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察している。	☐ 村落や都市の支配の変化、アジア各地やヨーロッパ諸国との交流の影響などに着目して、中世から近世の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現している。 ☐ ・時代の転換に着目して、近世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現している。	☐ 織豊政権の成立前後からの歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとしている。	知① 思① 主① 知② 思② 主② 知③
	第9章 幕藩体制の成立と展開	☐ 法や制度による支配秩序の形成と身分制、貿易の統制と対外関係、技術の向上と開発の進展、学問・文化の発展などを基に、幕藩体制の確立、産業の発達、近世の社会と文化の特色を理解している。	☐ 織豊政権との類似と相違、アジアの国際情勢の変化、交通・流通の発達、都市の発達と文化の担い手との関係、社会・経済の仕組みの変化、などに着目して、主題を設定し、近世の国家・社会の展開について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現している。	☐ 近世の国家・社会の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を示している。	知① 思① 主① 知② 思② 主② 知③
	第10章 幕藩体制の動揺	☐ 産業の発達、飢饉や一揆の発生、幕府政治の動揺と諸藩の動向、学問・思想の展開、庶民の生活と文化などを基に、幕藩体制の変容、近世の庶民の生活と文化の特色、近代化の基盤の形成を理解している。	☐ 社会・経済の仕組みの変化、幕府や諸藩の政策の変化、国際情勢の変化と影響、政治・経済と文化との関係などに着目して、主題を設定し、近世の国家・社会の変容について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現している。	☐ 近世の国家・社会の変容に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとしている。	知① 思① 主① 知② 思② 主② 知③

第11章 近世から近代へ	☐ 対外政策の変容と開国、幕藩体制の崩壊と新政権の成立などを基に、近世から近代への時代の時代の転換を理解している。	☐ 欧米諸国の進出によるアジア諸国の変化、政治・経済の変化と思想への影響などに着目して、近世から近代の国家・社会の変容を多面的・多角的に考察し、表現している。 ☐ 時代の転換に着目して、近代の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを表現している。	☐ 幕末の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を示している。	知① 思① 主① 知② 思② 主② 知③
第12章 近代国家の成立	☐ 大日本帝国憲法の制定、条約改正、日清・日露戦争などを基に、立憲体制への移行、国民国家の形成、アジアや欧米諸国との関係の変容を理解している。	☐ アジアや欧米諸国との関係、地域社会の変化、戦争が及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、近代の政治の展開と国際的地位の確立について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現している。	☐ 近代国家形成の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を示している。	知① 思① 主① 知② 思② 主② 知③
第13章 近代国家の成立	☐ 第一次世界大戦、社会運動の動向、政党政治などを基に、国民国家の形成、アジアや欧米諸国との関係の変容を理解している。 ☐ 学問の発展や教育制度の拡充、社会問題の発生などを基に、近代の文化の特色、大衆社会の形成を理解している。 ☐ 恐慌と国際関係などを基に、第二次世界大戦に至る過程を理解している。	☐ アジアや欧米諸国との関係、地域社会の変化、戦争が及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、近代の政治の展開と国際的地位の確立について、第一次世界大戦前後の対外政策や国内経済、国民の政治参加の拡大について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、根拠を示して表現している。 ☐ 地域社会における労働や生活の変化、教育の普及とその影響などに着目して、主題を設定し、日本の工業化の進展、近代の文化の形成について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現している。	☐ 第一次世界大戦とその後の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を示している。	知① 思① 主① 知② 思② 主② 知③

3 学 期	第14章 近代の産業と生活	☐ 産業革命の展開、交通の整備と産業構造の変容、学問の発展や教育制度の拡充、社会問題の発生などを基に、産業の発展の経緯と近代の文化の特色を理解している。	☐ 欧米の思想・文化の影響、産業の発展の背景と影響、地域社会における労働や生活の変化、教育の普及とその影響などに着目して、主題を設定し、日本の工業化の進展、近代の文化の形成について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現している。	☐ 産業革命によって生じた問題と、現代の社会問題との共通点・相違点について主体的に追究して、学習したことを現代の社会問題の解決に生かそうとしている。	知① 思① 主① 知② 思② 主② 知③
	第15章 恐慌と第二次世界大戦	☐ 軍部の台頭と対外政策、戦時体制の強化と第二次世界大戦の展開などを基に、第二次世界大戦に至る過程及び大戦中の政治・社会、国民生活の変容を理解している。	☐ 国際社会やアジア近隣諸国との関係、政治・経済体制の変化、戦争の推移と国民生活への影響などに着目して、主題を設定し、第二次世界大戦と日本の動向の関わりについて、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現している。	☐ 十五年戦争の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を示している。	知① 思① 主① 知② 思② 主② 知③
	第16章 占領下の日本	☐ 占領政策と諸改革、日本国憲法の成立、平和条約と日本の独立の回復、戦後の経済復興、アジア諸国との関係、高度経済成長、社会・経済・情報の国際化などを基に、我が国の再出発及びその後の政治・経済や対外関係、現代の政治や社会の枠組み、国民生活の変容を理解している。	☐ 第二次世界大戦前後の政治や社会の類似と相違、冷戦の影響、国民生活や地域社会の変化などに着目して、主題を設定し、戦前と戦後の国家・社会の変容、戦後政治の展開、日本経済の発展、第二次世界大戦後の国際社会における我が国の役割について、事象の意味や意義、関係性などを多面的・多角的に考察し、表現している。	☐ 戦後日本の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を示している。	知① 思① 主① 知② 思② 主② 知③

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教科	地理歴史	科目	世界史探究
学年・類型	3年 選択者	単位数	4
教科書	山川出版『詳説世界史探究』		
副教材	浜島出版『アカデミア世界史探究』 山川出版『世界史探究マスター問題集』		
科目目標	社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。		
学習方法	教科書・副教材を中心に、基本的な知識・技能を身につける。さらに史料解釈・論述課題・ペアワークなどをおとして、思考・判断・表現や主体的に学習に取り組む態度を養う。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
世界の歴史の大きな流れを理解する上での、基本的な知識が身についている。	世界史に関わる歴史的事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、地理的条件などとのつながりなどに着目して考察・説明し、歴史上で形成された課題を把握し、説明することができる。	世界史の展開に関わる諸事情について主体的・積極的に学んでおり、よりよい社会の実現のために意見を積極的に提示、発表することができる。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①定期考査	①定期考査 ②振り返りシート ③ワークシート	①提出課題 ②授業中の取り組み（振り返りシート等）

各学期及び学年の成績算出方法について
観点別評価 ① 知識・技能 40% ② 思考・判断・技能 40% ③ 主体的に学習に取り組む態度 20%

学 期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価 方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	第1章 文明の成立と古代文明の特質	☐ 世界各地の古代文明の特質に関する基礎的な知識が身についている。	☐ 世界各地の古代文明の特質が形成された要因について、地理的条件や歴史的背景から考察し、適切に表現することができる。	☐ 世界各地の古代文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出し、自律的に学習に取り組んでいる。	知① 思① 思② 主① 主②
	第2章 中央ユーラシアと東アジア世界	☐ 東アジア世界の形成および遊牧世界との関わりに関する基礎的な知識が身についている。	☐ 東アジア世界の形成過程と遊牧世界との関わりについて、史料を用いながら考察し、適切に表現することができる。	☐ 東アジア世界の形成過程と遊牧世界との関わりについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出し、自律的に学習に取り組んでいる。	知① 思① 思② 主① 主②
	第3章 南アジア世界と東南アジア世界の展開	☐ 南アジア世界と東南アジア世界の形成および「海の道」との関わりに関する基礎的な知識が身についている。	☐ 南アジア世界と東南アジア世界の形成および「海の道」との関わりについて、史料を用いながら考察し、適切に表現することができる。	☐ 南アジア世界と東南アジア世界の形成および「海の道」との関わりについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出し、自律的に学習に取り組んでいる。	知① 思① 思② 主① 主②
	第4章 西アジアと地中海周辺の国家形成	☐ 地中海世界の文明とペルシア文明の特質に関する基礎的な知識が身についている。	☐ 地中海世界の文明とペルシア文明の特質について、両者の違いや関わり等を、史料を用いながら考察し、適切に表現することができる。	☐ 地中海世界の文明とペルシア文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出し、自律的に学習に取り組んでいる。	知① 思① 思② 主① 主②
	第5章 イスラーム教の成立とヨーロッパ世界の形成	☐ イスラーム世界と中世ヨーロッパ世界の形成とその特質について、基礎的な知識が身についている。	☐ イスラーム世界と中世ヨーロッパ世界の形成とその特質について、両者の違いや関わり等を、史料を用いながら考察し、適切に表現することができる。	☐ イスラーム世界と中世ヨーロッパ世界の形成について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出し、自律的に学習に取り組んでいる。	知① 思① 思② 主① 主②
	第6章 イスラーム教の伝播と西アジアの動向	☐ イスラーム世界の拡大とその受容に関する基礎的な知識が身についている。	☐ イスラーム世界の拡大と受容の背景について、史料を用いながら考察し、適切に表現することができる。	☐ イスラームの拡大や文明について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出し、自律的に学習に取り組んでいる。	知① 思① 思② 主① 主②

2 学 期	第7章 ヨーロッパ世界の変容と展開	☐ 中世ヨーロッパ世界の変容について、基礎的な知識が身についている。	☐ 中世ヨーロッパ世界の変容の要因について、史料を用いながら考察し、適切に表現することができる。	☐ 中世ヨーロッパ後期の歴史について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出し、自律的に学習に取り組んでいる。	知① 思① 思② 主① 主②
	第8章 東アジアの展開とモンゴル帝国	☐ 宋・元時代の東アジアの特質と社会経済の発展、「パクス=モンゴリカ」が世界史にあたえた影響に関する基礎的な知識が身についている。	☐ 宋・元時代の東アジアの特質と社会経済の発展、「パクス=モンゴリカ」が世界史にあたえた影響について、史料を用いながら考察し、適切に表現することができる。	☐ 宋や元、モンゴル帝国の歴史について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出し、自律的に学習に取り組んでいる。	知① 思① 思② 主① 主②
	第9章 大交易時代・大交流の時代	☐ 大航海時代到来の背景や影響について、基礎的な知識が身についている。	☐ 大航海時代到来の背景や影響について、史料を用いながら考察し、適切に表現することができる。	☐ 大航海時代について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出し、自律的に学習に取り組んでいる。	知① 思① 思② 主① 主②
	第10章 アジアの諸帝国の繁栄	☐ 近世アジア諸帝国の特質について、基礎的な知識が身についている。	☐ 近世のアジア諸帝国の繁栄の要因について、史料を用いながら考察し、適切に表現することができる。	☐ 近世アジアの諸帝国について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出し、自律的に学習に取り組んでいる。	知① 思① 思② 主① 主②
	第11章 近世ヨーロッパ世界の動向	☐ 近世ヨーロッパの形成過程とその特質について、基礎的な知識が身についている。	☐ 近世ヨーロッパの形成過程とその特質について、史料を用いながら考察し、適切に表現することができる。	☐ 近世ヨーロッパについて、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出し、自律的に学習に取り組んでいる。	知① 思① 思② 主① 主②
	総合演習	☐ 世界史全体の流れについて、基礎的な知識が身についている。	☐ 世界史で起こった歴史的事象について、史料を用いながら考察し、適切に表現することができる。	☐ 世界史について自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出し、自律的に学習に取り組んでいる。	知① 思③ 主②
3 学 期	総合演習	☐ 世界史全体の流れについて、基礎的な知識が身についている。	世界史で起こった歴史的事象について、史料を用いながら考察し、適切に表現することができる。	世界史について自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出し、自律的に学習に取り組んでいる。	知① 思③ 主②

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教 科	公民	科 目	倫理
学年・類型	3年	単位数	4
教科書	高等学校 倫理（第一学習社）		
副教材	テオーリア 最新 倫理資料集（第一学習社）		
科目目標	人間としての在り方生き方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決に向けて構想したりする活動を通して、広い視野に立ち、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念に基づいて、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有意な形成者に必要な公民としての資質・能力を育成する。		
学習方法	「公共」で身に付けた選択・判断の手掛かりとなる考え方を活用し、哲学や思想に関わる対話的な手法などを取り入れた活動を通して、生徒自らがより深く思索するための概念や理論を理解できるようにする。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
古今東西の幅広い知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から人間としての在り方生き方に関わる情報を調べまとめる技能を身に付けている。	自立した人間として他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために倫理に関する概念や理論などを活用して、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりしている。	人間としての在り方生き方に関わる事象や課題に関連して、学習上の課題を意欲的に追究しようとしたり、他者と共によりよく生きる自己の形成に向けて多面的・多角的に考察しようとしたりしている。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①定期考査（知識・技能の定着状況を評価する問題を出題） ②確認テスト ③課題の提出内容 ④授業への取組状況	①定期考査（思考・判断・表現の定着状況を評価する問題を出題） ②課題の提出内容 ③授業への取組状況	①課題の提出状況、授業プリントの取組・提出状況 ②授業への取組状況 ③自己評価

各学期及び学年の成績算出方法について
観点別評価 ①知識・技能40％ ②思考・判断・表現40％ ③主体的に学習に取り組む態度20％

学 期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価 方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	第1編 現代に生きる自己の課題と人間としてのあり方生き方 第1章 人間の心と自己形成 ①人間とは何か ②さまざまな人間の心のあり方 ③自立して生きる主体の形成	☐ 青年期の課題を踏まえ、人格、感情、認知、発達についての心理学の考え方をもとに、様々な人間の心のあり方を理解している。	☐ 様々な人間の心のあり方を踏まえて、人間とは何かを思索し、他者と共によりよく生きる自己の生き方についての思索を深めている。	☐ 様々な人間の心のあり方について、科学的に探究した各種の実験や観察、調査に基づく統計的な分析の結果を読み取ったり、対話や作文などを通して学習を深めたりしている。	知① 知② 知③ 知④ 思① 思② 思③ 主① 主② 主③
	第2章 人間の存在や価値と宗教 ①哲学の形成 ②哲学の確立 ③ギリシア思想の展開 ④ユダヤ教の世界 ⑤イエス ⑥キリスト教の発展 ⑦イスラーム ⑧インドの思想文化 ⑨仏教の誕生と展開 ⑩儒家の思想 ⑪儒家以外の諸流派 ⑫宗教や芸術	☐ 古代ギリシアに見られる先哲の基本的な考え方が、理性的な人間観に支えられていることを理解している。 ☐ 宗教や芸術をもとに、様々な人間の見方や人生の捉え方を説く代表的な思想について、自己との関わりにおいて理解している。	☐ 古代ギリシアの思想から、生きることとは何かを思索し、それぞれの思想を比較しながら考察している。 ☐ 宗教・芸術とは何か、それらが人生や社会に与える影響はどのようなものかについて、自らの生き方と関わらせて思索を深めている。	☐ 古代ギリシアの思想、宗教や芸術をもとに、人生への問いや人間の存在や価値について、自己の課題と結び付けて思索している。	知① 知② 知③ 知④ 思① 思② 思③ 主① 主② 主③
	第3章 人間のあり方と社会 ①ルネサンス ②宗教改革 ③人間性の探究 ④科学革命の時代 ⑤経験論と合理論 ⑥社会契約の思想 ⑦人格の尊厳と自由 ⑧人倫と自由の実現 ⑨功利主義の思想 ⑩実証主義と進化論 ⑪社会主義の思想	☐ 人間の尊厳に関する思想について、代表的な先哲の思想を通して理解している。 ☐ 近代科学は、どのような背景から生まれてきたのかを理解している。 ☐ 社会契約の思想、人格の尊厳に関する思想、人倫の思想、功利主義の思想、実存主義の思想などについて、代表的な先哲の思	☐ 現代社会において人間の尊厳を自覚することの意義について考察している。 ☐ 近代科学、経験論と合理論の考え方の特色はどこにあるのかを、自己の課題とつなげて考察している。 ☐ 西洋近代の思想家たちは、社会契約、自由の実現、幸福についてどのように考えたのか、多面的・多角的に考察している。	☐ 多くの作品や絵画などから、代表的な先哲の人間観を主体的に考えている。 ☐ 科学的な考え方を踏まえ、科学技術の発達と自然との共生について主体的に考えている。 ☐ 西洋の思想からよく生きるとはということかを理解し、自分自身の生き方につなげて思索している。	知① 知② 知③ 知④ 思① 思② 思③ 主① 主② 主③

		想を通して理解している。			
2 学 期	⑫実存主義の思想 ⑬プラグマティズムの思想 第4章 現代の人間と社会をとらえる思想 ①心の深層と無意識 ②生の哲学と現象学 ③フランクフルト学派 ④構造主義・言語哲学 ⑤他者と偏見 ⑥正義と社会 ⑦生命への畏敬とボランティア 第5章 国際社会に生きる日本人としての自覚 ①日本の風土と伝統 ②日本仏教の展開 ③伝統思想の成熟 ④日本儒学の展開 ⑤国学の成立 ⑥庶民の思想 ⑦幕末の思想 ⑧明治の啓蒙思想 ⑨日本社会とキリスト教 ⑩近代的自我の確立 ⑪社会思想の展開 ⑫近代日本の思想課題	□ 現象学、言語哲学、構造主義などについて、代表的な先哲の思想を通して理解している。 □ 社会参加と奉仕の意義を理解し、社会参加の中にも生きがいがあることを理解している。 □ 日本人の人間観、自然観、宗教観などと、古来の日本人の心情と考え方との関係を理解している。	□ 現代の思想は、それまでの思想からどのような影響を受け、それらをどのように乗り越えようとしているかを考察している。 □ 様々な思想家の主張を振り返りながら、私たちの生き方はどのようなものであればよいのかを、多面的・多角的に考察している。 □ 日本人の意識や心情の底流となっている物事の捉え方、望ましい対人関係を考察している。	□ 現代の思想から私たちは何を学ぶことができるかを考察し、これからの生き方につなげようとしている。 □ 思想家のことばから、生涯をかけて自らの思想を実践した生き方をつかむことができる。 □ 古来から現代までの日本人の心情と考え方をもとに、国際社会に生きる日本人としての人間観、自然観、宗教観などの特質について主体的に考えている。	知① 知② 知③ 知④ 思① 思② 思③ 主① 主② 主③

	第2編 現代の諸課題と倫理 第1章 自然や科学技術にかかわる諸課題と倫理 ①生殖医療と遺伝子操作 ②脳死臓器移植と再生医療 ③自己決定の尊重と末期医療 ④地球環境問題 ⑤生物多様性と自然環境 ⑥予防原則と世代間倫理 ⑦高度情報通信技術の進展と私たちの生活 ⑧先端科学技術の利用と私たちの生活 第2章 社会と文化にかかわる諸課題と倫理 ①多様性のある社会 ②さまざまな他者との協働 ③地域共生社会と家族 ④文化や宗教の理解と現代世界 ⑤異文化理解と多文化共生 ⑥持続可能な社会の育成 ⑦世界のなかの日本人としての生き方	☐ 生命倫理、地球環境、科学技術などとの関わりにおいて、人間としてのあり方生き方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を理解している。 ☐ 福祉、文化と宗教、国際平和などとの関わりにおいて、人間としてのあり方生き方についての見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を理解している。	☐ 生命倫理、地球環境、科学技術などとの関わりにおいて、他者と対話しながら、現代の諸課題を探究している。 ☐ 福祉、文化と宗教、国際平和などとの関わりにおいて、他者と対話しながら、現代の諸課題を探究している。	☐ 生命倫理、地球環境、科学技術などをめぐって問題となっている事例を収集し、主体的に解決しようとしている。 ☐ 福祉、文化と宗教、国際平和などをめぐって問題となっている事例を収集し、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	知① 知② 知③ 知④ 思① 思② 思③ 主① 主② 主③
3 学期	問題集を活用した学習の復習 大学入学共通テスト対策演習と解説				

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教科	数学	科目	数学Ⅲ
学年・類型	3年・高進理系	単位数	5
教科書	高等学校 数学Ⅲ（数研出版）		
副教材	4STEP 数学Ⅲ（数研出版） NEW ACTION LEGEND 数学Ⅲ（東京書籍） リンク数学演習ⅢC（数研出版） NEW GLOBAL MARCH 数学ⅠAⅡBC		
科目目標	極限、微分法及び積分法について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。		
学習方法	予習を前提とした授業を行う。予習では例や例題を参考に練習問題を解くこと。復習は「日々の演習及び週末課題」に取り組み内容の定着を図ること。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
極限、微分法及び積分法についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	数列や関数の値の変化に着目し、極限について考察したり、関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 定期考査（知識・技能の定着状況を評価する問題を出題） ② 単元テスト	① 定期考査（思考・判断・表現について評価する問題を出題） ② 単元テスト	① 週末課題等の提出状況 ② 課題考査

各学期及び学年の成績算出方法について
観点別評価 知識・技能 40% 思考・判断・表現 40% 主体的に学習に取り組む態度 20%

学 期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価 方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	第3章 微分法 第1節 導関数 1. 微分係数と導関数 2. 導関数の計算	☐ 定義にしたがって微分係数を求めることができる。 ☐ 関数が微分可能であることと連続であることの関係について理解し、関数が微分可能でないことを示すことができる。 ☐ 導関数を、微分係数を与える関数として理解している。 ☐ 定義にしたがって導関数を求めることができる。 ☐ 積の導関数の公式を適用して、関数を微分できる。 ☐ 商の導関数の公式を適用して、関数を微分できる。 ☐ 合成関数の導関数を求めることができる。 ☐ 逆関数の微分法を用いて、導関数を求めることができる。 ☐ 三角関数を含む関数の微分ができる。 ☐ 対数関数を含む関数の微分ができる。 ☐ 対数微分法を用いて複雑な関数を微分することができる。 ☐ 指数関数を含む関数の微分ができる。	☐ これまで学んだ公式を用いて、新たな公式を証明することができる。 ☐ $\log x $ の導関数について、それを考える理由とともに理解し、導関数の計算ができる。	☐ 連続であっても微分可能でない関数が存在することに興味をもつ。 ☐ $(x^\alpha)' = \alpha x^{\alpha-1}$ において、 α の範囲が自然数、整数、有理数と拡張されていくことに興味をもち、その展開について理解を深めようとする。 ☐ $(1+k)^{\frac{1}{k}}$ が $k \rightarrow 0$ のときどのような値に近づいていくかに興味をもち、その値や性質について自ら調べようとする。 ☐ 自然対数の底 e の値について、指数関数のグラフの接線の傾きという観点から見直そうとする。 ☐ 第 n 次導関数の式の形を予想しようとする。 ☐ 陰関数の微分や媒介変数表示された関数の微分について、その	知① 知② 思① 思② 主① 主②
	第2節 いろいろな関数の導関数 3. いろいろな関数の導関数 4. 第 n 次導関数 5. 曲線の方程式と導関数				知① 知②

	☐ 高次導関数の定義や表記を理解し、種々の関数の高次導関数を求めることができる。 ☐ 方程式 $F(x, y)=0$ を関数 (陰関数) とみる考え方を理解している。 ☐ 方程式 $F(x, y)=0$ を関数 (陰関数) とみて微分することができる。 ☐ 媒介変数 t で表された関数の導関数を、 t を用いて表すことができる。	☐ 第2次, 第3次導関数などを求めることで、一般の第 n 次導関数を求めることができる。 ☐ 陰関数表示 $F(x, y)=0$ を、陽関数表示 $y=f(x)$ としなくても微分できることを理解している。	簡便さを理解し、積極的に利用しようとする。	思① 思② 主① 主②
第4章 微分法の応用 第1節 導関数の応用 1. 接線の方程式 2. 平均値の定理 3. 関数の値の変化 4. 関数のグラフ 第2節 いろいろな応用 5. 方程式, 不等式への応用 6. 速度と加速度 7. 近似式	☐ 微分係数の意味を理解しており、曲線の接線の方程式を求めることができる。 ☐ 曲線の法線の方程式を求めることができる。 ☐ 平均値の定理の図形的な意味を理解している。 ☐ 導関数を用いて関数の増減を調べることができる。 ☐ 導関数を用いて関数の極値を求めることができる。 ☐ 関数の極値が与えられたとき、関数を決定することができる。 ☐ 関数の増減を調べて、最大値, 最小値を求めることができる。 ☐ 第2次導関数の図形的な意味を理解し、曲線の凹凸や変曲点を調べることができる。 ☐ 第2次導関数と極値の関係を理解している。 ☐ $\frac{e^x}{x^n}$ や $\frac{x^n}{e^x}$ の $x \rightarrow \infty$ のときの極限について、直感的に理解している。 ☐ 導関数の定義から、点の位置を表す関数の導関数が速度を、第2次	☐ 曲線外の点 C から曲線に接線を引くとき、接点 A における接線が点 C を通ると読み替えて、接線の方程式を求めることができる。 ☐ 陰関数の微分を活用して、接線の方程式を求めることができる。 ☐ 平均値の定理を用いた不等式の証明ができる。 ☐ 数学Ⅱで学習した関数の増減や導関数との関係について、より厳密に定義し直した上で、平均値の定理を用いて証明することができる。 ☐ 微分可能でない点でも関数が値をもつことがあることを理解し、定義をもとに極値を求めることができる。 ☐ 増減や凹凸, 漸近線などを調べて、関数のグラフをかくことができる。 ☐ 不等式を関数の値域の条件として捉え、関数の増減を用いて不等式の証明ができる。	☐ 接線や法線の方程式を、様々な導関数を活用して求めようとする。 ☐ 存在定理である平均値の定理について、その意味を理解し、 c の値を具体的に求めることで確かめようとする。 ☐ 関数の増減の様子を調べるのに、導関数を積極的に活用しようとする。また、導関数だけでなく連続性や微分可能性, 極値の定義などにも注意して、増減を丁寧に調べようとする。 ☐ 関数のグラフの様々な形に興味をもち、様々な方法でそれを調べようとする。	知① 知② 思① 思②

第5章 積分法とその応用 第1節 不定積分 1. 不定積分とその基本性質 2. 置換積分法と部分積分法 3. いろいろな関数の不定積分 第2節 定積分 4. 定積分とその基本性質	導関数が加速度を表すことを理解している。 ☐ 直線上を運動する点の速度と加速度を求めることができる。 ☐ 平面上を運動する点の速さと加速度の大きさを求めることができる。 ☐ 微分係数の意味とその図形的な意味から、関数の近似式について理解できる。 ☐ 関数の1次の近似式を作ることができる。 ☐ 不定積分の意味について、積分定数も含めて理解している。 ☐ 関数 x^a の不定積分を求めることができる。 ☐ 三角関数や指数関数の不定積分を求めることができる。 ☐ $f(ax+b)$ の不定積分を求めることができる。 ☐ 合成関数の微分の逆演算として置換積分法を理解し、正しく適用できる。 ☐ 積の微分の逆演算として部分積分法を理解し、不定積分を求めることができる。 ☐ 部分積分法を用いて、対数関数の不定積分を求めることができる。 ☐ 不定積分の公式が適用できるように式変形を工夫して、分数関数の不定積分を求めることができる。 ☐ 不定積分の公式が適用できるように三角関数を適切に変形して、不定積分を求めることができる。 ☐ 定積分は関数のグラフと x 軸の間の面積を表すことを理解してい	☐ 方程式の解を関数のグラフの交点として捉え、グラフを用いて方程式の解について考察できる。 ☐ 直線上を運動する点の速度、加速度をもとに、平面上を運動する点の速度、加速度について考察できる。 ☐ 関数の1次の近似式を活用して、数の近似値を求めることができる。 ☐ 定数倍および和、差の不定積分の公式が適用できるように式を適切に変形できる。 ☐ $f(g(x))g'(x)$ の関数の形に着目して式を見たり変形したりすることで、不定積分の計算ができる。 ☐ 部分積分法を用いるとき、どの関数を $f(x)$、$g(x)$ と考えるか、適切に判断できる。また、その根拠を説明できる。 ☐ 部分分数に分解する方法を理解している。 ☐ 絶対値を含む関数の定積分を、積分区間を分けて求めることが	☐ 不等式を関数的視点で捉え、微分法を利用して解決しようとする。 ☐ 点の運動の考察に微分法を活用できることに興味をもち、様々な点の運動について調べようとする。 ☐ 導関数を利用して、1次の近似式を考察しようとする。 ☐ 積分法が微分法の逆演算であることから、様々な関数の不定積分を求めようとする。 ☐ 簡単には不定積分が求められない関数について、置換積分法や部分積分法を用いて計算しようとする。 ☐ 三角関数の積を和や差の形にすることに興味をもち、その変形に用いる公式を導こうとする。	主① 主② 知① 知② 思① 思② 主① 主②
---	--	---	---	---

5. 置換積分法と部分積分法 6. 定積分のいろいろな問題	第3節 積分法の応用 7. 面積 8. 体積 9. 道のり 10. 曲線の長さ	る。 ☐ 定積分の定義や性質を理解し、不定積分をもとに定積分を求めることができる。 ☐ 定積分の置換積分法では、積分区間の变化に注意して計算できる。 ☐ 三角関数で置換する置換積分法を用いて定積分を計算できる。 ☐ 偶関数、奇関数の定義を理解している。 ☐ 上端がxである定積分を、xで微分することができる。 ☐ 数列の和の極限を定積分を用いて求めることができる。 ☐ 関数の大小と定積分の大小の関係を用いたり、定積分を図形の面積とみたりすることで、不等式の証明ができる。 ☐ 定積分を用いて図形の面積を求めることができる。 ☐ 曲線$x=g(y)$で囲まれた部分の面積を求めることができる。 ☐ $F(x, y)=0$で表される曲線で囲まれた図形の面積を求めることができる。 ☐ 定積分で体積が求められる仕組みを、区分求積法で面積が求められることと関連付けて理解している。 ☐ x軸、y軸周りの回転体の体積を求めることができる。 ☐ 数直線上で運動する点の座標や通過した道のりを、定積分を用いて求めることができる。 ☐ 座標平面上で運動する点の通過する道のりを、定積分を用いて求めることができる。 ☐ 媒介変数表示された曲線の長さを、座標平面上で点が通過した道	できる。 ☐ $\sqrt{a^2 - x^2}$の定積分について、円の面積と関連付けて考察できる。 ☐ 偶関数、奇関数の性質を用いて定積分の計算が効率的にできる。 ☐ 上端、下端にxを含む定積分を、xの関数と捉えて問題を解決できる。 ☐ 定積分は定数であることを利用して、定積分を含む関数を求めることができる。 ☐ 区分求積法について理解し、長方形の作り方を変えた場合などについても考察、説明ができる。 ☐ 媒介変数表示された曲線で囲まれた図形の面積を、置換積分法を活用して求めることができる。 ☐ 立体の断面がどのような図形になるか考え、定積分を用いて体積を求めることができる。 ☐ $F(x, y)=0$で表される曲線や媒介変数表示された曲線で囲まれる図形を回転させてできる回転体の体積を求めることができる。 ☐ 数直線上を運動する点が通過する道のりについて、$v-t$グラフで囲まれた部分の面積と関連付けて考察できる。	☐ 定積分を面積と関連付けて理解を深めようとする。 ☐ 簡単には定積分が求められない関数について、置換積分法や部分積分法を用いて計算しようとする。 ☐ $e^x \sin x$の定積分に部分積分法を用いると同じ定積分が再び出てくことに興味をもち、その計算方法を考察しようとする。 ☐ $\sin^n x$の定積分に部分積分法を用いると漸化式が導かれることに興味をもち、その計算方法や計算結果について考察しようとする。 ☐ 曲線で囲まれた部分の面積を、細長い長方形の面積の和の極限と捉えることに興味をもち、定積分と数列の和の極限との関係を考察しようとする。 ☐ 図形の面積を求めるとき、グラフの位置関係などを、図をかいて把握しようとする。 ☐ 面積を求める際、対称性に着目して、計算を効率的に行おうとする。 ☐ 定積分を用いると、既習の三角錐や円錐の体積、球の体積の公式が導けることに興味をもち、積極的に考察しようとする。 ☐ 点の運動の考察に定積分を活用できることに興味をもち、様々な点の運動について調べようとする。	知① 知② 思① 思② 主① 主②
--	--	---	--	---	--

		□ のりと関連させて理解している。 □ 媒介変数表示された曲線の長さを求めることができる。 □ 曲線 $y=f(x)$ の長さを求めることができる。	□ 曲線 $y=f(x)$ は $x=t, y=f(t)$ と媒介変数表示することで、曲線 $y=f(x)$ の長さを求められることを理解している。	□ 曲線上の点が通過する道のりを、その曲線の長さで捉えることに興味をもち、理解を深めようとする。
2 学 期	数学Ⅲ演習 リンク数学演習ⅢC 「basic」「challenge」 で復習 【数学Ⅲ】 関数 極限 微分法 積分法	□ 分数関数、無理関数、逆関数の定義を理解し、グラフをかくことができる。 □ 無限級数の収束、発散を判定する条件を理解し、利用できる。 □ 不定形を解消するように関数の式を変形することにより、関数の極限を調べることができる。 □ 定義に基づいて、関数の連続性、不連続性を判定することができる。 □ 導関数の定義を理解し、種々の導関数を求めることができる。 □ 導関数の符号と関数の増減の関係を理解し、導関数を利用して関数の増減や極値が調べられる。 □ 導関数を利用して、不等式の証明や方程式の実数解の個数問題を解くことができる。 □ 定積分の定義や性質を理解し、それを利用する種々の関数の定積分の計算方法を理解している。 □ 媒介変数表示された曲線や直線で囲まれた部分の面積を置換積分を利用して求めることができる。	□ グラフを利用して、方程式・不等式を解くことができる。 □ 無限等比級数の収束、発散を等比数列の和の極限を調べることで考察できる。 □ 関数の極限が簡単に求められない場合に、数列の極限の大小関係（はさみうちの原理）を用いて極限が求められる。 □ 最大最小の応用問題、不等式等にグラフを活用して工夫した解決方法を考察することができる。 □ 球を円の回転体と捉え、球の体積を円 $x^2+y^2=1$ で囲まれた部分を x 軸の周りに1回転させた立体の体積として求めることができる。	□ 逆関数や合成関数の考え方に興味をもち、活用しようとする。 □ 繰り返しを含む図形的な問題に興味をもち、無限等比級数を利用して考察しようとする。 □ 連続でない関数に興味をもち、グラフを用いてそのことを調べようとする。 □ 関数のグラフの様々な形に興味をもち、これまで学んだことを利用して調べようとする。 □ 一般の回転体の体積に興味を示し、具体的に理解しようとする。
	共通テスト対策 (マーク演習)	□ 試験時間内に、速く正確な計算ができる。	□ 発展的な問題に対して、類題をもとに解法を考え出すことができる。	□ 様々な問題に積極的に取り組む意欲がある。
3 学 期	共通テスト対策 (マーク演習)	□ 試験時間内に、速く正確な計算ができる。	□ 発展的な問題に対して、類題をもとに解法を考え出すことができる。	□ 様々な問題に積極的に取り組む意欲がある。

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教科	数学	科目	数学B+数学C
学年・類型	3年・文系	単位数	1+1
教科書	高等学校 数学B（数研出版），高等学校 数学C（数研出版） リンク数学演習ⅠAⅡBC（数研出版）		
副教材	4プロセス 数学B（数研出版），4STEP 数学C（数研出版） NEW ACTION LEGEND 数学Ⅱ+B（東京書籍） NEW ACTION LEGEND 数学C（東京書籍） NEW GLOBAL MARCH 数学ⅠAⅡBC		
科目目標	数列，統計的な推測，ベクトルについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学と社会生活の関わりについて認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。		
学習方法	予習を前提とした授業を行う。予習では進度表の指示された問題を解くこと。復習は「日々の演習及び週末課題」に取り組み内容の定着を図ること。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数列，統計的な推測，ベクトルについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と社会生活の関わりについて認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し，事象を数学的に表現し考察する力，確率分布や標本分布の性質に着目し，母集団の傾向を推測し判断したり，標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力，日常の事象や社会の事象を数学化し，問題を解決したり，解決の過程や結果を振り返って考察したりする力，大きさと向きをもった量に着目し，演算法則やその図形的な意味を考察する力，図形や図形の構造に着目し，それらの性質を統合的・発展的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 定期考査（知識・技能の定着状況を評価する問題を出題） ② 単元テスト	① 定期考査（思考・判断・表現について評価する問題を出題） ② 単元テスト	① 週末課題等の提出状況 ② 課題考査

各学期及び学年の成績算出方法について
観点別評価 知識・技能 40％ 思考・判断・表現 40％ 主体的に学習に取り組む態度 20％

学 期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価 方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	数学ⅠAⅡ演習 リンク数学演習ⅠAⅡBC 「basic」「challenge」 で復習 【数学B】 数列 統計的な推測	☐ 等差数列の公差，一般項などを理解している。 ☐ 等差数列の和の公式を適切に利用して，数列の和が求められる。 ☐ 等比数列の公比，一般項などを理解している。 ☐ 等比数列の和の公式を，適切に利用して数列の和が求められる。 ☐ 記号 Σ の意味と性質を理解し，数列の和が求められる。 ☐ 階差数列を利用して，もとの数列の一般項が求められる。 ☐ 数列の和 S_n と第 n 項 a_n の関係を理解し，数列の一般項が求められる。 ☐ 漸化式を適切に変形して，初項と漸化式から数列の一般項が求められる。 ☐ 数学的帰納法を用いて等式，不等式，自然数に関する命題を証明できる。 ☐ 確率変数の期待値，分散，標準偏差が求めることができる。 ☐ 二項分布に従う確率変数の期待値，分散，標準偏差を求めることができる。 ☐ 標準正規分布表を用いて，正規分布に関する確率の計算ができる。 ☐ 標本平均の分布を正規分布で近似して確率を求めることができる。 ☐ 信頼区間の考え方を用いて，母平均や母比率の推定ができる。 ☐ 仮説検定の考え方を用いて，日常の身近な事象に対する主張を検定することができる。	☐ 項の正負と数列の和の増減の関係から，等差数列の和の最大，最小について考察することができる。 ☐ 等比数列の和を工夫して求める方法について考察できる。 ☐ 群数列を理解し，ある特定の群に属する数の和が求められる。 ☐ 初項と漸化式を用いて数列を定義できることを理解している。 ☐ 数学的帰納法で証明した命題について，別の方法で証明してそれらを比較するなど，多面的に考察することができる。 ☐ 確率変数の積の期待値や和の分散と確率変数の性質との相互関係が捉えられている。 ☐ 正規分布の特徴を理解し，様々な視点から捉えることができる。 ☐ 大数の法則について理解し，標本の大きさ n が大きくなるときの標本平均の分布の変化について考察できる。 ☐ 片側検定と両側検定の違いを理解し，どちらの検定をするか正しく判断できる。	☐ 等差中項の性質に興味をもち，問題解決に取り組もうとする。等差数列の和を工夫して求める方法に興味をもち，等差数列の和の公式を導こうとする意欲がある。 ☐ 等比数列の和を工夫して求める方法に興味をもち，等比数列の和の公式を導こうとする意欲がある。 ☐ 群数列に興味をもち，考察しようとする。 ☐ おき換えや工夫を要する複雑な漸化式について，考察しようとする。 ☐ 数学的帰納法を利用して，いろいろな事柄を積極的に証明しようとする。 ☐ 2つの確率変数の和や積の期待値，分散に関する種々の公式を，確率変数が独立であるかどうかに関心しながら導こうとする。 ☐ 現実に行われている様々な調査が全数調査か標本調査か，またその方法を採用しているのはなぜかに興味を持ち，それぞれの調査の特徴を調べたりしようとする。 ☐ 母平均や母比率の推定に関心を示し，信頼区間の幅と標本の大きさや信頼度との関係を考察しようとする。	知① 知② 思① 思② 主① 主②

2 学 期	数学ⅠAⅡ演習 リンク数学演習ⅠAⅡBC 「basic」「challenge」 で復習 【数学C】 ベクトル 共通テスト対策 (マーク演習)	☐ ベクトルの演算ができる。 ☐ ベクトルの内積の定義を理解し、内積を求めることができる。 ☐ ベクトルを点の位置ベクトルで表すことができる。 ☐ 位置ベクトルを活用して、3点が一直線上にあることを証明できる。 ☐ 空間図形において、ベクトルの和や差、実数倍を考えることができる。 ☐ 空間のベクトルが3つのベクトルの線形和で1通りに表されることを理解し、具体的なベクトルを3つのベクトルで表すことができる。 ☐ 位置ベクトルの定義や内分点などの位置ベクトルが平面上のベクトルの場合と同じであることを理解している。 ☐ 中心と半径が与えられた球面の方程式を求めることができる。 ☐ 試験時間内に、速く正確な計算ができる。	☐ ベクトルの垂直条件を活用して、与えられたベクトルに垂直なベクトルを求めることができる。 ☐ 内積の性質を用いて、ベクトルの大きさやなす角を求めたりすることができる。 ☐ 位置ベクトルの一意性を利用して、線分の交点の位置ベクトルを求めることができる。 ☐ 点が線分AB上に存在する条件を活用して、点Pの存在範囲を求めることができる。 ☐ 空間における点の表し方を理解し、座標平面や座標軸、原点に関して対称な点の座標を求めることができる。 ☐ 空間の3点が一直線上にあることを証明できる。 ☐ 位置ベクトルの一意性を利用して、直線と平面の交点の位置ベクトルを求めることができる。 ☐ 球面と平面が交わってできる図形を連立方程式の解の集合として考察できる。 ☐ 発展的な問題に対して、類題をもとに解法を考え出すことができる。	☐ 様々な図形の考察にベクトルを活用しようとする。 ☐ 図形のベクトル方程式について、点の座標についての方程式と関連させて考察することができる。 ☐ 空間ベクトルについて、平面上のベクトルの拡張として捉えようとする。 ☐ 様々な空間図形の考察にベクトルを活用しようとする。 ☐ 様々な問題に積極的に取り組む意欲がある。	知① 知② 思① 思② 主① 主②
3 学 期	共通テスト対策 (マーク演習)	☐ 試験時間内に、速く正確な計算ができる。	☐ 発展的な問題に対して、類題をもとに解法を考え出すことができる。	☐ 様々な問題に積極的に取り組む意欲がある。	

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教科	数学	科目	数学B+数学C
学年・類型	3年・理系	単位数	1+1
教科書	高等学校 数学B（数研出版），高等学校 数学C（数研出版） リンク数学演習ⅠAⅡBC（数研出版）		
副教材	4プロセス 数学B（数研出版），4STEP 数学C（数研出版） NEW ACTION LEGEND 数学Ⅱ+B（東京書籍） NEW ACTION LEGEND 数学C（東京書籍） NEW GLOBAL MARCH 数学ⅠAⅡBC		
科目目標	数列，統計的な推測，ベクトル，複素数平面，式と曲線について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，数学と社会生活の関わりについて認識を深め，事象を数学的に考察する能力を培い，数学のよさを認識できるようにするとともに，それらを活用する態度を育てる。		
学習方法	予習を前提とした授業を行う。予習では進度表の指示された問題を解くこと。復習は「日々の演習及び週末課題」に取り組み内容の定着を図ること。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数列，統計的な推測，ベクトル，複素数平面，式と曲線についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，数学と社会生活の関わりについて認識を深め，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	離散的な変化の規則性に着目し，事象を数学的に表現し考察する力，確率分布や標本分布の性質に着目し，母集団の傾向を推測し判断したり，標本調査の方法や結果を批判的に考察したりする力，日常の事象や社会の事象を数学化し，問題を解決したり，解決の過程や結果を振り返って考察したりする力，大きさと向きをもった量に着目し，演算法則やその図形的な意味を考察する力，図形や図形の構造に着目し，それらの性質を統合的・発展的に考察する力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 定期考査（知識・技能の定着状況を評価する問題を出題） ② 単元テスト	① 定期考査（思考・判断・表現について評価する問題を出題） ② 単元テスト	① 週末課題等の提出状況 ② 課題考査

各学期及び学年の成績算出方法について
観点別評価 知識・技能 40％ 思考・判断・表現 40％ 主体的に学習に取り組む態度 20％

学 期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価 方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	第3章 複素数平面 1. 複素数平面 2. 複素数の極形式 3. ド・モアブルの定理 4. 複素数と図形	☐ 複素数の絶対値の定義を理解し、与えられた複素数の絶対値を求めることができる。 ☐ 複素数の実数倍が複素数平面上で何を意味するか理解し、3点が1直線上にあるように複素数を定めることができる。 ☐ 共役複素数の性質を理解し、用いることができる。 ☐ ド・モアブルの定理を理解し、複素数の n 乗を求めることができる。 ☐ 1の n 乗根を求めることができる。 ☐ 複素数の方程式について、その意味を考えたり計算したりすることで、表す図形を求めることができる。 ☐ 原点以外の点を中心として回転した点を表す複素数を求めることができる。 ☐ 複素数平面上で半直線のなす角を求めることができる。 ☐ 複素数平面上で3点が一直線上にある条件や2直線が垂直に交わる条件を理解し、利用することができる。	☐ 共役複素数や $-z$ などを極形式でどのように表すか、その定義から考察できる。 ☐ 複素数の積の図形的な意味を活用して、正三角形の頂点となる複素数を求めることができる。 ☐ 複素数の n 乗根がちょうど n 個存在することを、極形式を用いて考察できる。 ☐ 1の n 乗根の求め方をもとに、一般の複素数の n 乗根を求めることができる。 ☐ 線分の内分点を表す複素数を活用して、線分の内分点や外分点を表す複素数や三角形の重心を表す複素数を求めることができる。 ☐ 点 z と連動して動く点 w が描く図形について、その式の意味も含めて考察したり説明したりできる。 ☐ 半直線のなす角について、原点以外の点を中心とする回転と統一的に理解している。 ☐ 複素数平面上における半直線のなす角や線分の長さを活用して、三角形の形状について考察できる。	☐ 複素数が $a+bi$ とは別の形で表せることに興味をもち、それらの違いや共通点を自ら見出そうとする。 ☐ 複素数の積の図形的な意味から、ド・モアブルの定理を自ら見出したり証明したりしようとする。 ☐ 図形の問題を、複素数の演算の図形的意味を用いて積極的に考察しようとする。 ☐ 複素数の方程式が表す図形について、複素数を $x+yi$ とおくなどして、複数の方法で考察しようとする。 ☐ 複素数平面上的三角形の形状が1つの複素数で決定されることに興味をもち、三角形の形状を調べようとする。	知① 知② 思① 思② 主① 主②
	第4章 式と曲線 1. 放物線 2. 楕円 3. 双曲線 4. 2次曲線の平行移動 5. 2次曲線と直線 6. 2次曲線の性質 7. 曲線の媒介変数表示	☐ 放物線や楕円、双曲線の標準形について理解し、曲線の概形をかいたり焦点や準線、漸近線等を求めたりできる。 ☐ 2次曲線と直線の共有点の座標を求めることができる。 ☐ 接点が与えられたときに接線を求めることができる。 ☐ 媒介変数表示された曲線の方程	☐ 軌跡の考え方をを用いて、放物線や楕円、双曲線の方程式を求めることができる。 ☐ 2次曲線と直線の共有点を方程式の解と捉え、共有点の個数について考察できる。 ☐ 2次曲線と直線の接点を連立方程式の重解と捉え、接線の方程	☐ 既知の円や放物線などの曲線を、条件を満たす点の軌跡として捉えなおそうとする。 ☐ x , y の2次式の係数によって、方程式がどのような曲線を表すか一般的に検討しようとする。 ☐ 曲線の媒介変数表示について、具体的に点をプロットしていくこ	

	8. 極座標と極方程式	□ 式を求めることができる。 □ 点の座標について、直交座標と極座標を相互に変換できる。簡単な曲線を極方程式で表すことができる。 □ 平面上の曲線について、x、yの方程式と極方程式を相互に変換できる。	□ 式を求めることができる。 □ 離心率の条件を満たす点の軌跡として、2次曲線の方程式を求めることができる。 □ 条件から点の座標を1つの文字で表し、それを曲線の媒介変数表示と捉えることで、その点が描く曲線を求めることができる。 □ 媒介変数表示された曲線の平行移動について、点の平行移動をもとに考察できる。	とで、どのような曲線か考察しようとする。 □ サイクロイドについて、具体的な点をプロットするなどして、媒介変数表示や曲線の概形を考察しようとする。	
2 学 期	数学ⅠAⅡ演習 リンク数学演習ⅠAⅡBC 「basic」「challenge」 で復習 【数学B】 数列 統計的な推測 数学ⅠAⅡ演習 リンク数学演習ⅠAⅡBC 「basic」「challenge」 で復習 【数学C】 ベクトル	□ 等差数列の一般項、数列の和が求められる。 □ 等比数列の一般項、数列の和が求められる。 □ 階差数列を利用して、もとの数列の一般項が求められる。 □ 数列の和 S_n と第 n 項 a_n の関係を理解し、数列の一般項が求められる。 □ 漸化式を適切に変形して、初項と漸化式から数列の一般項が求められる。 □ 確率変数の期待値、分散、標準偏差が求めることができる。 □ 二項分布に従う確率変数の期待値、分散、標準偏差を求めることができる。 □ 標準正規分布表を用いて、正規分布に関する確率の計算ができる。 □ 標本平均の分布を正規分布で近似して確率を求めることができる。 □ 信頼区間の考え方を用いて、母平均や母比率の推定ができる。 □ 仮説検定の考え方を用いて、日常の身近な事象に対する主張を検定することができる。	□ 項の正負と数列の和の増減の関係から、等差数列の和の最大、最小について考察することができる。 □ 等比数列の和を工夫して求める方法について考察できる。 □ 群数列を理解し、ある特定の群に属する数の和が求められる。 □ 初項と漸化式を用いて数列を定義できることを理解している。 □ 確率変数の積の期待値や和の分散と確率変数の性質との相互関係が捉えられている。 □ 正規分布の特徴を理解し、様々な視点から捉えることができる。 □ 大数の法則について理解し、標本の大きさ n が大きくなるときの標本平均の分布の変化について考察できる。 □ 片側検定と両側検定の違いを理解し、どちらの検定をするか正しく判断できる。 □ ベクトルの垂直条件を活用して、与えられたベクトルに垂直	□ 等比数列の和を工夫して求める方法に興味をもち、等比数列の和の公式を導こうとする意欲がある。 □ 群数列に興味をもち、考察しようとする。 □ おき換えや工夫を要する複雑な漸化式について、考察しようとする。 □ 2つの確率変数の和や積の期待値、分散に関する種々の公式を、確率変数が独立であるかどうかに関心を持ちながら導こうとする。 □ 現実に行われている様々な調査が全数調査か標本調査か、またその方法を採用しているのはなぜかに興味を持ち、それぞれの調査の特徴を調べたりしようとする。 □ 母平均や母比率の推定に関心を示し、信頼区間の幅と標本の大きさや信頼度との関係を考察しようとする。 □ 様々な図形の考察にベクトルを活用しようとする。	知① 知② 思① 思② 主① 主②

	共通テスト対策 (マーク演習)	☐ ベクトルの演算ができる。 ☐ ベクトルの内積の定義を理解し、内積を求めることができる。 ☐ ベクトルを点の位置ベクトルで表すことができる。 ☐ 位置ベクトルを活用して、3点が一直線上にあることを証明できる。 ☐ 空間図形において、ベクトルの和や差、実数倍を考えることができる。 ☐ 空間のベクトルが3つのベクトルの線形和で1通りに表されることを理解し、具体的なベクトルを3つのベクトルで表すことができる。 ☐ 位置ベクトルの定義や内分点などの位置ベクトルが平面上のベクトルの場合と同じであることを理解している。 ☐ 中心と半径が与えられた球面の方程式を求めることができる。 ☐ 試験時間内に、速く正確な計算ができる。	なベクトルを求めることができる。 ☐ 内積の性質を用いて、ベクトルの大きさやなす角を求めたりすることができる。 ☐ 位置ベクトルの一意性を活用して、線分の交点の位置ベクトルを求めることができる。 ☐ 点が線分AB上に存在する条件を活用して、点Pの存在範囲を求めることができる。 ☐ 空間における点の表し方を理解し、座標平面や座標軸、原点に関して対称な点の座標を求めることができる。 ☐ 空間の3点が一直線上にあることを証明できる。 ☐ 位置ベクトルの一意性を活用して、直線と平面の交点の位置ベクトルを求めることができる。 ☐ 球面と平面が交わってできる図形を連立方程式の解の集合として考察できる。 ☐ 発展的な問題に対して、類題をもとに解法を考え出すことができる。	☐ 図形のベクトル方程式について、点の座標についての方程式と関連させて考察することができる。 ☐ 空間ベクトルについて、平面上のベクトルの拡張として捉えようとする。 ☐ 様々な空間図形の考察にベクトルを活用使用とする。 ☐ 様々な問題に積極的に取り組む意欲がある。	
3 学 期	共通テスト対策 (マーク演習)	☐ 試験時間内に、速く正確な計算ができる。	☐ 発展的な問題に対して、類題をもとに解法を考え出すことができる。	☐ 様々な問題に積極的に取り組む意欲がある。	

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教 科	数学	科 目	探究数学H
学年・類型	3年・文系	単位数	3
教科書	リンク数学演習ⅠAⅡBC（数研出版）		
副教材	NEW GLOBAL MARCH 数学ⅠAⅡBC		
科目目標	数学ⅠAⅡの内容を理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。		
学習方法	予習を前提とした授業を行う。予習では進度表に指示された問題を解くこと。復習は「日々の演習及び週末課題」に取り組み内容の定着を図ること。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数学ⅠAⅡのすべての分野についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 定期考査（知識・技能の定着状況を評価する問題を出題） ② 単元テスト	① 定期考査（思考・判断・表現について評価する問題を出題） ② 単元テスト	① 週末課題等の提出状況 ② 課題考査

各学期及び学年の成績算出方法について	
観点別評価 知識・技能 40％ 思考・判断・表現 40％ 主体的に学習に取り組む態度 20％	

学 期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価 方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	数学ⅠAⅡ演習 リンク数学演習ⅠAⅡBC 「basic」「challenge」 で復習 【数学Ⅰ】 数と式 集合と命題 2次関数 図形と計量 データの分析	☐ 式の形の特徴に着目し、展開や因数分解ができる。 ☐ 絶対値の意味から絶対値を含む方程式や不等式を解くことができる。 ☐ 集合とその表し方を理解し、共通部分、和集合、空集合、補集合について理解している。 ☐ 2次関数の最大値、最小値を求めることができる。 ☐ 2次不等式を利用する応用問題を解くことができる。 ☐ 正弦定理や余弦定理を用いて、三角形の角の大きさや辺の長さを求めることができる。 ☐ 平均値や中央値、最頻値、分散や標準偏差の定義とその意味を理解し、求めることができる。	☐ 絶対値の意味から絶対値を含む方程式や不等式を解くことができる。 ☐ ベン図を利用して視覚的に考察できる。 ☐ 対偶の利用や背理法の利用を適切に判断し、命題を証明できる。 ☐ 2次関数のグラフとx軸との位置関係や共有点の個数を判別式の符号から考察することができる。 ☐ 三角形と三角形の面積の関係を考察する。三角形の面積と内接円の関係を導き活用しようとする。	☐ 複雑な因数分解や方程式不等式を解くことに取り組む意欲がある。 ☐ 対偶や背理法を用いると鮮やかに証明できることに興味関心を持ち、実際に証明しようとする。 ☐ 身近な問題を2次関数を用いて解決しようとする。 ☐ 身近な事象などに正弦定理や余弦定理を活用しようとする。 ☐ 身近な事柄において、仮説検定の考え方を活用して判断使用とする態度がある。	知① 知② 思① 思② 主① 主②
	【数学A】 場合の数 確率 図形の性質 数学と人間の活動	☐ 順列や組合せの用語、記号、公式を理解し、利用できる。 ☐ 確率の定義を理解し、確率の求め方がわかる。 ☐ 三角形の外心、内心、重心の定義、性質を理解している。 ☐ 円周角の定理、方べきの定理を理解している。 ☐ 2つの整数a、bの除数と余りを用いて表し、 $a+b$ などの余りを求めることができる。 ☐ 互除法の原理を理解し、互除法を用いて2数の最大公約数を求めることができる。 ☐ 1次不定方程式の特殊解を求め、それによりすべての整数解を求めることができる。	☐ 特殊な条件が付く順列や組合せを見方を変えたり、別なものに対応させたりして処理することができる。 ☐ 原因の確率について、条件付き確率を利用して求める方法を考察することができる。 ☐ チェバの定理、メネラウスの定理を線分比や面積比を求める問題に活用できる。 ☐ 整数に関する問題を1次不定方程式帰着させて考察することができる。	☐ 順列と組合せの違いに興味関心を持ち、適切に用いて求めようとする。 ☐ 具体的な事象についての確率に興味を持って考えようとする。 ☐ 2つの円の位置関係の判定条件として、中心間の距離と半径の関係について、積極的に考察しようとする。 ☐ 互除法や割り算の等式を利用して、 $ax+by=c$ を満たす整数x、yの組を求める方法に興味を持ち、積極的に活用しようとする。	知① 知② 思① 思② 主① 主②

2 学 期	数学ⅠAⅡ演習 リンク数学演習ⅠAⅡBC 「basic」「challenge」 で復習 【数学Ⅱ】 複素数と方程式 図形と方程式 三角関数 指数関数と対数関数 微分法と積分法 共通テスト対策 (マーク演習)	☐ 二項定理の導き方を理解し、二項定理を利用して、展開式やその項の係数を求めることができる。 ☐ 分数式の約分や四則演算ができる。 ☐ 等式、不等式を証明することができる。 ☐ 因数定理を用いて因数分解することができる、高次方程式を解くことができる。 ☐ 与えられた条件を満たす直線の方程式や円の方程式の求め方を理解している。 ☐ 指数と対数とを相互に書き換えることができる。 ☐ 対数の性質に基づいた種々の対数の値の計算や方程式や不等式を解くことができる。 ☐ 導関数を利用して、関数の増減を調べ、極値を求めたりグラフをかくたりすることができる。 ☐ 直線や曲線で囲まれた部分の面積を定積分で表して求めることができる。 ☐ 試験時間内に、速く正確な計算ができる。	☐ 二項定理を等式の証明に活用できる。 ☐ 与えられた条件式の利用方法を考察することができ、適した方法を用いることによって、等式や不等式を証明することができる。 ☐ やや複雑な2数を解とする2次方程式がどのようなものであるか、解と係数の関係を利用して考察することができる。 ☐ 円の中心から直線までの距離と円の半径の関係の大小関係を代数的に処理することで、円と直線の位置関係を考察することができる。 ☐ 三角関数を含む方程式、不等式の解き方を理解している。 ☐ 加法定理、2倍角の公式、合成を利用して、やや複雑な方程式、不等式を解くことができる。 ☐ 非常に大きな数や小さな数の取り扱いが楽になる常用対数の有用性を考察することができる。 ☐ 方程式の実数解の個数を関数のグラフとx軸の共有点の個数に読み替えて考察することができる。 ☐ 交点の座標が複雑な値であるとき、公式を利用するなどして、工夫して求める方法を考察することができる。 ☐ 発展的な問題に対して、類題をもとに解法を考え出すことができる。	☐ 相加平均・相乗平均の大小関係の有用性に興味・関心をもつ。 ☐ 2次方程式を複素数の範囲で因数分解することに興味をもち、問題に取り組もうとする。 ☐ 与えられた方程式が表す図形に興味・関心をもち、図を用いて問題を考察しようとする。 ☐ 加法定理から2倍角の公式、半角の公式を導こうとする。 ☐ 桁数や小数首位の問題を一般的に考察しようとする。 ☐ 方程式や不等式を関数的視点で捉え、微分法を利用して解決しようとする。 ☐ 積分法が微分法の逆演算であることに興味・関心をもち、不定積分を求めようとする。 ☐ 様々な問題に積極的に取り組む意欲がある。	知① 知② 思① 思② 主① 主②
3 学 期	共通テスト対策 (マーク演習)	☐ 試験時間内に、速く正確な計算ができる。	☐ 発展的な問題に対して、類題をもとに解法を考え出すことができる。	☐ 様々な問題に積極的に取り組む意欲がある。	

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教 科	数学	科 目	探究数学S
学年・類型	3年・中進理系	単位数	5
教科書	リンク数学演習ⅠAⅡBC（数研出版） リンク数学演習ⅢC（数研出版）		
副教材	NEW GLOBAL MARCH 数学ⅠAⅡBC		
科目目標	数学ⅠAⅡⅢの内容を理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。		
学習方法	予習を前提とした授業を行う。予習では進度表に指示された問題を解くこと。復習は「日々の演習及び週末課題」に取り組み内容の定着を図ること。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
数学ⅠAⅡⅢのすべての分野についての概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。	関数関係をより深く捉えて事象を的確に表現し、数学的に考察したりする力、いろいろな関数の局所的な性質や大域的な性質に着目し、事象を数学的に考察したり、問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。	数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く柔軟に考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 定期考査（知識・技能の定着状況を評価する問題を出題） ② 単元テスト	① 定期考査（思考・判断・表現について評価する問題を出題） ② 単元テスト	① 週末課題等の提出状況 ② 課題考査

各学期及び学年の成績算出方法について
観点別評価 知識・技能 40% 思考・判断・表現 40% 主体的に学習に取り組む態度 20%

学 期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価 方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	数学ⅠAⅡ演習 リンク数学演習ⅠAⅡBC 「basic」「challenge」 で復習 【数学Ⅰ】 数と式 集合と命題 2次関数 図形と計量 データの分析	☐ 式の形の特徴に着目し、展開や因数分解ができる。 ☐ 絶対値の意味から絶対値を含む方程式や不等式を解くことができる。 ☐ 集合とその表し方を理解し、共通部分、和集合、空集合、補集合について理解している。 ☐ 2次関数の最大値、最小値を求めることができる。 ☐ 2次不等式を利用する応用問題を解くことができる。 ☐ 正弦定理や余弦定理を用いて、三角形の角の大きさや辺の長さを求めることができる。 ☐ 平均値や中央値、最頻値、分散や標準偏差の定義とその意味を理解し、求めることができる。	☐ 絶対値の意味から絶対値を含む方程式や不等式を解くことができる。 ☐ ベン図を利用して視覚的に考察できる。 ☐ 対偶の利用や背理法の利用を適切に判断し、命題を証明できる。 ☐ 2次関数のグラフとx軸との位置関係や共有点の個数を判別式の符号から考察することができる。 ☐ 三角形と三角形の面積の関係を考察する。三角形の面積と内接円の関係を導き活用しようとする。	☐ 複雑な因数分解や方程式不等式を解くことに取り組む意欲がある。 ☐ 対偶や背理法を用いると鮮やかに証明できることに興味関心を持ち、実際に証明しようとする。 ☐ 身近な問題を2次関数を用いて解決しようとする。 ☐ 身近な事象などに正弦定理や余弦定理を活用しようとする。 ☐ 身近な事柄において、仮説検定の考え方を活用して判断使用とする態度がある。	知① 知② 思① 思② 思③ 主① 主② 主③
	【数学A】 場合の数 確率 図形の性質 数学と人間の活動	☐ 順列や組合せの用語、記号、公式を理解し、利用できる。 ☐ 確率の定義を理解し、確率の求め方がわかる。 ☐ 三角形の外心、内心、重心の定義、性質を理解している。 ☐ 円周角の定理、方べきの定理を理解している。 ☐ 2つの整数a、bの除数と余りを用いて表し、 $a+b$ などの余りを求めることができる。 ☐ 互除法の原理を理解し、互除法を用いて2数の最大公約数を求めることができる。 ☐ 1次不定方程式の特殊解を求め、それによりすべての整数解を求めることができる。	☐ 特殊な条件が付く順列や組合せを見方を変えたり、別なものに対応させたりして処理することができる。 ☐ 原因の確率について、条件付き確率を利用して求める方法を考察することができる。 ☐ チェバの定理、メネラウスの定理を線分比や面積比を求める問題に活用できる。 ☐ 整数に関する問題を1次不定方程式帰着させて考察することができる。	☐ 順列と組合せの違いに興味関心を持ち、適切に用いて求めようとする。 ☐ 具体的な事象についての確率に興味を持って考えようとする。 ☐ 2つの円の位置関係の判定条件として、中心間の距離と半径の関係について、積極的に考察しようとする。 ☐ 互除法や割り算の等式を利用して、 $ax+by=c$ を満たす整数x、yの組を求める方法に興味をもち、積極的に活用しようとする。	知① 知② 思① 思② 思③ 主① 主② 主③

	【数学Ⅱ】 複素数と方程式 図形と方程式 三角関数	☐ 二項定理の導き方を理解し、二項定理を利用して、展開式やその項の係数を求めることができる。 ☐ 分数式の約分や四則演算ができる。 ☐ 等式、不等式を証明することができる。 ☐ 因数定理を用いて因数分解することができる、高次方程式を解くことができる。 ☐ 与えられた条件を満たす直線の方程式や円の方程式の求め方を理解している。	☐ 二項定理を等式の証明に活用できる。 ☐ 与えられた条件式の利用方法を考察することができ、適した方法を用いることによって、等式や不等式を証明することができる。 ☐ やや複雑な2数を解とする2次方程式がどのようなものであるか、解と係数の関係を利用して考察することができる。 ☐ 円の中心から直線までの距離と円の関係の大小関係を代数的に処理することで、円と直線の位置関係を考察することができる。 ☐ 三角関数を含む方程式、不等式の解き方を理解している。 ☐ 加法定理、2倍角の公式、合成を利用して、やや複雑な方程式、不等式を解くことができる。	☐ 相加平均・相乗平均の大小関係の有用性に興味・関心をもつ。 ☐ 2次方程式を複素数の範囲で因数分解することに興味をもち、問題に取り組もうとする。 ☐ 与えられた方程式が表す図形に興味・関心をもち、図を用いて問題を考察しようとする。 ☐ 加法定理から2倍角の公式、半角の公式を導こうとする。	知① 知② 思① 思② 思③ 主① 主② 主③
2 学 期	数学ⅠAⅡ演習 リンク数学演習ⅠAⅡBC 「basic」「challenge」 で復習 【数学Ⅱ】 指数関数と対数関数 微分法と積分法	☐ 指数と対数とを相互に書き換えることができる。 ☐ 対数の性質に基づいた種々の対数の値の計算や方程式や不等式を解くことができる。 ☐ 導関数を利用して、関数の増減を調べ、極値を求めたりグラフをかいたりすることができる。 ☐ 直線や曲線で囲まれた部分の面積を定積分で表して求めることができる。	☐ 非常に大きな数や小さな数の取り扱いが楽になる常用対数の有用性を考察することができる。 ☐ 方程式の実数解の個数を関数のグラフとx軸の共有点の個数に読み替えて考察することができる。 ☐ 交点の座標が複雑な値であるとき、公式を利用するなどして、工夫して求める方法を考察することができる。	☐ 桁数や小数首位の問題を一般的に考察しようとする。 ☐ 方程式や不等式を関数的視点で捉え、微分方を利用して解決しようとする。 ☐ 積分法が微分方の逆演算であることに興味・関心をもち、不定積分を求めようとする。	知① 知② 思① 思② 思③ 主① 主② 主③

3 学 期	数学Ⅲ演習 リンク数学演習ⅢC 「basic」「challenge」 で復習 【数学Ⅲ】 関数 極限 微分法 積分法	☐ 分数関数、無理関数、逆関数の定義を理解し、グラフをかくことができる。 ☐ 無限級数の収束、発散を判定する条件を理解し、利用できる。 ☐ 不定形を解消するように関数の式を変形することにより、関数の極限を調べることができる。 ☐ 定義に基づいて、関数の連続性、不連続性を判定することができる。 ☐ 導関数の定義を理解し、種々の導関数を求めることができる。 ☐ 導関数の符号と関数の増減の関係を理解し、導関数を利用して関数の増減や極地が調べられる。 ☐ 導関数を利用して、不等式の証明や方程式の実数解の個数問題を解くことができる。 ☐ 定積分の定義や性質を理解し、それを利用する種々の関数の定積分の計算方法を理解している。 ☐ 媒介変数表示された曲線や直線で囲まれた部分の面積を置換積分を利用して求めることができる。	☐ グラフを利用して、方程式・不等式を解くことができる。 ☐ 無限等比級数の収束、発散を等比数列の和の極限を調べることで考察できる。 ☐ 関数の極限が簡単に求められない場合に、数列の極限の大小関係（はさみうちの原理）を用いて極限が求められる。 ☐ 最大最小の応用問題、不等式等にグラフを活用して工夫した解決方法を考察することができる。 ☐ 球を円の回転体と捉え、球の体積を円 $x^2 + y^2 = 1$ で囲まれた部分を x 軸の周りに1回転させた立体の体積として求めることができる。	☐ 逆関数や合成関数の考え方に興味をもち、活用しようとする。 ☐ 繰り返しを含む図形的な問題に興味をもち、無限等比級数を利用して考察しようとする。 ☐ 連続でない関数に興味をもち、グラフを用いてそのことを調べようとする。 ☐ 関数のグラフの様々な形に興味をもち、これまで学んだことを利用して調べようとする。 ☐ 一般の回転体の体積に興味を示し、具体的に理解しようとする。	知① 知② 思① 思② 思③ 主① 主② 主③
	共通テスト対策 (マーク演習)	☐ 試験時間内に、速く正確な計算ができる。	☐ 発展的な問題に対して、類題をもとに解法を考え出すことができる。	☐ 様々な問題に積極的に取り組む意欲がある。	知① 知② 思① 思② 主① 主② 主③
	共通テスト対策 (マーク演習)	☐ 試験時間内に、速く正確な計算ができる。	☐ 発展的な問題に対して、類題をもとに解法を考え出すことができる。	☐ 様々な問題に積極的に取り組む意欲がある。	

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教科	理科	科目	物理
学年・類型	3年・理系	単位数	3
教科書	総合物理1・2（啓林館）		
副教材	リードα物理基礎・物理（数研出版）、物理研究ノート（博洋社）、フォトサイエンス物理図録（数研出版）		
科目目標	物理的な事物・現象に主体的に関わり、見通しをもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する技能や態度を身に付けるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、科学的な見方・考え方を養う。		
学習方法	日常生活の中で起こる様々な自然現象に興味を持ち、疑問に思ったことを確かめてみる。その際、教科書や副教材を中心に、物理的な事物・現象に対する概念や法則を暗記するのではなく、しっかりと理解する。また、課題発見学習や探究活動、グループワーク等を通して、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を養う。授業においては、毎時間後の復習を徹底し、理解を深める努力をする。計算力は必須なので、複雑な計算も必ず自分の手で行う。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
物理的な事物・現象についての観察、実験などを行うことを通して、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いている。	物理的な事物・現象を対象に、探究の過程を通して、規則性を発見したり、認識を深めたりするための情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、実験データの分析・解釈、法則性の導出などの探究の方法が習得できている。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力が育まれている。	物理的な事物・現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し、見通しをもって観察、実験などに取り組み解決しようとするなど、科学的に探究しようとする態度が養われている。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①定期考査（知識・技能の定着状況を評価する問題を出題） ②確認テスト ③授業への取組状況	①定期考査（思考・判断・表現について評価する問題を出題） ②確認テスト ③課題、実験レポート等の内容 ④授業への取組状況	①課題考査 ②確認テスト ③課題・実験レポート等への取組状況や提出状況 ④授業への取組状況

各学期及び学年の成績算出方法について
観点別評価 知識・技能 40% 思考・判断・表現 40% 主体的に学習に取り組む態度 20%

学期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	総合物理1 第3部 波 第3章 光 ○第2節 レンズと球面鏡 ○第3節 光の回折と干渉	☐ レンズや球面鏡の写像公式や、光線の作図方法について理解する。 ☐ 光の回折と干渉について、位相や光路差の概念を利用し、光の干渉条件を定量的に理解する。 ☐ 実験10「ヤングの実験」(P.340)を行い、干渉についての理論値と実験値の比較をすることで干渉の様子を確かめることができる。	☐ レンズや鏡に入射した光線の入射後の進路を作図によって表現することができる。また、写像公式をレンズや球面鏡の幾何学的な側面から導出することができる。 ☐ スリットや薄膜による様々な干渉について、干渉条件を定量的に説明することができる。	☐ 光の性質に関心をもち、眼鏡・カメラ・顕微鏡のような光学機器への応用や光がもたらす現象について主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主② 主③ 主④
	総合物理2 第1部 電気と磁気 第1章 電界と電位 ○第1節 静電気 ○第2節 電界 ○第3節 電位 ○第4節 コンデンサー	☐ 静電気と電子、電荷と電気量について理解する。 ☐ 静電誘導と誘電分極について理解する。 ☐ 電界と電位の関係やクーロンの法則について理解する。 ☐ 実験2「等電位線の作図」(P.26)を行い、電界や電位の概念を確かめることができる。 ☐ コンデンサーの電気容量の式や接続、充・放電の仕組みについて理解する。	☐ 実験1「箔検電器」(P.11)を行い、静電気の種類や箔の開閉の理由について説明することができる。 ☐ コンデンサー回路のスイッチ切り替えに伴う電荷の移動や電圧の変化について、定量的に説明することができる。	☐ 身の回りで起こる静電気現象や導体・絶縁体・半導体の違いに関心をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。 ☐ コンデンサーの性質や利用方法に関心をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主② 主③ 主④
	第2章 電流 ○第1節 電流 ○第2節 直流回路 ○第3節 半導体	☐ オームの法則や電圧降下、ジュール熱、キルヒホッフの法則について理解する。 ☐ p型半導体やn型半導体、トランジスタの働きについて理解する。	☐ 探究1「導体の長さや断面積による電気抵抗の違い」(P.48)を行い、得られた結果から電気抵抗に関する規則性を見いだすことができる。 ☐ 電気抵抗やジュール熱について、自由電子の運動の観点から定量的に説明することができる。 ☐ キルヒホッフの法則を用いて、諸回路の特性や仕組みについて正確に判断し、説明することができる。	☐ 身の回りの電気回路や半導体を用いた電子製品に関心をもち、主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主② 主③ 主④

2 学 期	第3章 電流と磁界 ○第1節 磁気力と磁界 ○第2節 電流がつくる磁界 ○第3節 電流が磁界から受ける力 ○第4節 ローレンツ力	□ 右ねじの法則やフレミングの左手の法則を元に、電流の周囲に生じる磁界や電流・磁界・力の関係を理解する。 □ ローレンツ力や磁界中の荷電粒子の運動、各加速器の特徴について理解する。	□ 直線電流・円電流の周囲に生じる磁界や電流・磁界・力の関係について正確に判断し、説明することができる。 □	□ 身の回りの磁気に関する現象や生活に利用されているものに関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主② 主③ 主④
	第4章 電磁誘導と電磁波 ○第1節 電磁誘導の法則 ○第2節 磁界中を運動する導体棒 ○第3節 自己誘導と相互誘導 ○第4節 交流 ○第5節 電気振動と電磁波	□ ファラデーの電磁誘導の法則や磁界中を運動する導体棒に生じる誘導起電力について理解する。 □ 自己誘導と相互誘導の仕組みについて理解する。 □ 交流の発生や交流回路の特性を理解する。 □ 電磁波の発生原理や性質について理解する。	□ 探究2「電磁誘導」(P.98)を行い、コイルを貫く磁束の変化と誘導起電力の大きさとの間にどのような関係があるのかを考察し、規則性を見いだすことができる。 □ レンツの法則を元に、誘導電流の向きや誘導起電力の高低について正確に判断し、説明することができる。 □ 磁界中を導体棒が運動する際の誘導起電力や回路を流れる電流の時間変化などをグラフで表現し、経過を説明することができる。	□ 身の回りで利用されている電磁誘導や交流について関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主② 主③ 主④
	第2部 原子・分子の世界 第1章 電子と光 ○第1節 電子の電荷と質量 ○第2節 光の粒子性 ○第3節 X線 ○第4節 粒子の波動性	□ 電子の電気量や質量について、歴史的な測定方法に触れながら理解する。 □ 光電効果やコンプトン効果を通して、光の粒子性について理解する。 □ X線の持つ波動性と粒子性を元に、電子などの粒子に波動性があることを理解する。	□ 光電効果と光の粒子性との関係について説明することができる。 □ コンプトン効果を定量的に扱い、光の粒子性を明らかにすることができる。	□ 電子の電気量や質量が求められた経緯について主体的に調べようとしている。 □ X線や電子顕微鏡などの身の回りで利用されているものに関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主② 主③ 主④

	第2章 原子・原子核・素粒子 ○第1節 原子モデル ○第2節 原子核と放射線 ○第3節 核反応と核エネルギー ○第4節 素粒子と宇宙	☐ ボーアの水素原子モデルを用いて、水素原子のエネルギー準位を表す式やスペクトルについて理解する。 ☐ 放射線や原子核反応、核エネルギーについて理解する。	☐ やってみよう「光の吸収による黒い炎の観察」(P.182)を行い、なぜ炎が黒く見えたのかを考察し、説明することができる。	☐ 様々な原子モデルやスペクトル、放射線の性質について関心を持ち、主体的に学習に取り組もうとしている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主② 主③ 主④
	問題演習 (共通テスト対策)				
3 学 期	問題演習 (共通テスト対策)				

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教科	理科	科目	化学（4）
学年・類型	3年・理系	単位数	4
教科書	化学（第一学習社）		
副教材	セミナー化学基礎＋化学（第一学習社），サイエンスビュー新化学資料（実教出版）		
科目目標	化学的な事物・現象に関わり，理科の見方・考え方を働かせ，見通しをもって観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けるようにする。また，化学的な事物・現象を観察，実験などを行い，科学的に探究する力を養う。日常生活や社会の化学的な事物・現象に主体的に関わり，科学的に探究しようとする態度を養う。		
学習方法	教科書を中心にしたプリント学習を行う。問題演習では，プリントと問題集を適宜利用する。また，日常生活や社会の化学的な事物・現象について観察，実験などを行い，観察・実験などに関する基本的な技能を身に付けるとともに，科学的に探究する力を養う。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
化学的な事物・現象についての実験などを通して，日常生活や社会の化学的な事物・現象について理解しているとともに，科学的に探究するために必要な実験などに関する基本操作や記録などの基本的な技術を身に付けている。	日常生活や社会の化学的な事物・現象について問題を見だし，見通しをもって実験などを行い，科学的に考察し表現しているなど，科学的に探究している。	日常生活や社会の化学的な事物・現象について主体的に関わり，見通しをもったり振り返ったりするなど，科学的に探究しようとしている。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 定期考査(知識・技能の定着状況を評価する問題を出題) ② 確認テスト ③ 授業への取り組み状況	① 定期考査(思考・判断・表現について評価する問題を出題) ② 確認テスト ③ 課題や実験プリントの内容 ④ 授業への取り組み状況	① 課題やノート、授業プリントへの取り組み状況や提出状況 ② 確認テスト ③ 実験や実験プリントへの取り組み状況や提出状況 ④ 授業への取り組み状況

各学期及び学年の成績算出方法について
観点別評価 知識・技能 40% 思考・判断・表現 40% 主体的に取り組む態度 20%

学期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1学期	化学 第3章 無機物質 第3節 典型金属元素	☐ アルカリ金属元素の単体やその化合物の性質を理解している。炎色反応を利用することによって金属を推定できることを示すことができる。 ☐ アルカリ土類金属元素の単体やその化合物の性質を理解している。アルカリ金属元素とアルカリ土類金属元素の性質の差異を、実験により確認することができる。 ☐ アルミニウムや亜鉛の単体やその化合物の性質を理解している。アルミニウムイオンや亜鉛イオンの性質の差異を実験により確認することができる。 ☐ 典型元素の金属イオンの反応を理解している。スズや鉛の単体やイオンの性質の差異を実験により確認することができる。	☐ アルカリ金属元素が属する1族に水素も入れられているが、それらの性質は異なることを理解している。 ☐ アルカリ土類金属元素はアルカリ金属元素と異なる性質があることに疑問をもつ。 ☐ アルミニウムや亜鉛などは、両性金属としての性質があることを理解している。 ☐ スズ・鉛の単体や化合物の性質を理解している。	☐ アンモニアソーダ法についてそのしくみと効率的な運用方法に興味をもっている。 ☐ 2族元素でも、ベリリウムやマグネシウムとカルシウムやバリウムなどでは性質が異なることに関心がある。 ☐ 身近な金属であるアルミニウムや亜鉛に関心をもつ。 ☐ スズや鉛は14族元素であるが、14族には非金属元素である炭素・ケイ素があり、それらの性質の違いに興味をもつ。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主② 主③ 主④
	第4節 遷移元素	☐ 遷移元素の化合物の化学式と色が書ける。	☐ 遷移元素のうちのおもな元素について単体やその化合物の性質を理解している。	☐ 元素には遷移元素と典型元素とがあり、それぞれ特徴的な性質をもっていることに興味をもつ。 身近な金属である鉄に関心をもつ。	知① 知② 知③ 思① 思②

	☐ 鉄の化合物の性質を理解している。鉄の2種類のイオンの性質の差異を実験により確認することができる。 ☐ 銅の単体やイオンの性質を理解している。銅(Ⅱ)イオンの性質を実験により確認することができる。 ☐ 銀イオンの性質を実験により確認することができる。 ☐ マンガンの化合物について理解している。クロムイオン・マンガンイオンの実験を考案できる。 ☐ 数種類のイオンについて、分離・確認する方法を理解している。数種類の金属イオンを含む水溶液から、実験によりイオンを特定することができる。	☐ 鉄を鉄鉱石から得る方法を説明できる。 ☐ 銅を主成分とした合金には種々のものがあることを知っている。 ☐ 銀イオンについてのさまざまな反応を理解している。 ☐ クロム酸イオンの性質を理解している。	☐ 身近な金属である銅に関心をもつ。 ☐ 身近な金属である銀に関心をもつ。 ☐ 金・クロム・マンガンがどのようなところに利用されているか関心がある。 ☐ 金属イオンの特徴を利用して、金属イオンの混合物から分離・確認することに関心がある。	思③ 思④ 主① 主② 主③ 主④
第4章 有機化合物 第1節 有機化合物の特徴	☐ 有機化合物の分類に官能基を用いると、性質を知るうえでも好ましいことに気づいている。 ☐ 元素分析の手法と計算方法を理解している。成分元素の検出方法を試すことができる。	☐ 有機化合物の分類方法には、炭素原子間の結合の種類、鎖状か環状か、ベンゼン環をもつかもたないかなどの骨格で分類することができることを理解している。 ☐ 有機化合物の成分元素の検出の方法を表すことができる。	☐ 有機化合物に特有な性質を知ることによって、有機化学への興味をいどく。 ☐ 成分元素の種類やその量を調べることによって組成式や分子式が求められることに興味をもつ。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主②

				主③ 主④
第2節 脂肪族炭化水素	☐ アルカンは置換反応を起こして種々の置換体を生じることを理解している。アルカンの性質を実験により説明することができる。 ☐ アルケンやアルキンが付加反応を起こすことを理解している。エチレンを実験室的に合成したり、炭化水素の性質を確かめることができる。	☐ 分子式から構造を考え、構造異性体を示すことができる。 ☐ アルケンやアルキンは二重結合や三重結合をもつことを理解している。また、シス-トランス異性体について理解している。	☐ 同族体では分子量と共に融点・沸点などの性質が連続的に変化することに興味をもつ。 ☐ アルケンにはシス-トランス異性体が存在することに興味をもつ。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主② 主③ 主④
第3節 酸素を含む脂肪族炭化水素	☐ ナトリウムに対するアルコールとエーテルの反応性の違いを理解している。アルコールの一般的な性質を実験により確認することができる。 ☐ アルデヒドとケトンは互いに異性体である場合があることを理解している。アルデヒドには還元性があることなどを実験を通して確認することができる。ヨードホルム反応を実験により確認できる。 ☐ 鏡像異性体をもつ物質が存在することを理解している。鏡像異性体を、脂	☐ アルコールの分類と酸化生成物の相違を理解している。 ☐ アルデヒドはさらに酸化されてカルボン酸となることを理解している。 ☐ カルボン酸の強さと炭酸や塩酸などの酸との強さが異なることを理解している。また、カルボン酸から生じる酸無水物があることを理解している。 ☐ エステル化は脱水反応の一つであることを理解している。	☐ アルコールとエーテルは構造異性体の関係にあることを理解している。 ☐ アルデヒドやケトンはカルボニル化合物であり、そのほかにも $C=O$ をもつ化合物があることを予想できる。 ☐ カルボン酸は多様に分類されることに興味をもつ。 ☐ 身のまわりの芳香成分にはエステルが加えられていることがあることに興味をもっている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主② 主③ 主④

		肪族カルボン酸を例にして模型により説明することができる。 ☐ エステルとカルボン酸は互いに構造異性体である場合があること、油脂もエステルであり、それを原料としてセッケンが得られることを理解している。セッケンと合成洗剤の相違を理解している。エステルをアルコールとカルボン酸から合成できることを理解している。			
2 学期	第4節 芳香族化合物	☐ ベンゼン環も特別な方法によって付加反応が起こることを理解している。芳香族化合物の異性体を考えることができる。ニトロベンゼンを合成する方法を考案できる。 ☐ フェノール類とアルコールの違いを理解している。ベンゼンの置換反応、フェノールを原料とした染料の合成を実験により確認できる。 ☐ サリチル酸など芳香族化合物の性質を理解している。サリチル酸から医薬品の成分が合成できることを示すことができる。	☐ ベンゼンの置換反応にはスルホン化、ニトロ化、塩素化などがあることを理解している。 ☐ フェノールの酸性の強さは非常に弱いこと、また芳香族アミンは塩基性物質であることを理解している。 ☐ 無水フタル酸も酸無水物であることを理解している。 ☐ 身近な染料にはアゾ化合物からなるものがあることを予想する。	☐ 芳香族化合物の特徴であるベンゼン環について理解している。 ☐ 工業原料として重要なフェノールの合成方法には種々の方法があることに興味をもっている。 ☐ 安息香酸の利用法に興味をもつ。 ☐ 芳香族アミンの構造から、その性質はアンモニアと似ているだろうと想像する。 ☐ 有機化合物も、無機化合物のような性質の違いによって混合物を分離できる可能性があることに興味がある。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主② 主③ 主④

	☐ 芳香族アミンからアセチル化によりアミドが生成することを理解している。アニリンからアゾ化合物が得られることを理解している。染色方法を理解している。アニリンを合成することができる。 ☐ 芳香族カルボン酸、フェノール、アニリンなどの酸・塩基としての性質を利用して、混合物からそれぞれを分離できることを理解している。有機化合物の酸・塩基としての性質を利用して、混合物から実験で分離できる。			
第4章 高分子化合物 第1節 高分子化合物	☐ 高分子化合物は、単量体が付加重合や縮合重合で多数結合してできた重合体であることを理解している。	☐ 高分子化合物の構造、特徴について理解している。	☐ 身近にある高分子化合物に興味をもっている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主② 主③ 主④

第2節 天然高分子化合物	☐ 天然有機化合物の種類を理解している。 ☐ 糖の量的関係に関連する計算問題が解ける。糖類の性質や検出法を実験により確認できる。 ☐ デンプンの加水分解に関わる計算問題を解くことができる。糖類の加水分解反応を起こすことができる。 ☐ アミノ酸の等電点について理解している。 ☐ タンパク質の成分元素について理解し、それに関する問題を解くことができる。タンパク質の性質や検出法を、実験により確認できる。 ☐ DNA の複製、核酸によるタンパク質合成を理解している。	☐ 糖類の分類、構造、性質を理解している。 ☐ 多糖の構造、性質を理解している。 ☐ アミノ酸の構造と性質を理解している。 ☐ タンパク質の構造、性質を理解している。酵素の性質を理解している。 ☐ 核酸の構造を理解している。	☐ 天然有機化合物に興味をもっている。 ☐ 糖について興味をもっている。 ☐ セルロースの誘導体について興味をもっている。 ☐ アミノ酸に興味をもっている。 ☐ タンパク質に興味をもっている。 ☐ 核酸のはたらきに興味をもっている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④ 主① 主② 主③ 主④
第3節 合成高分子化合物	☐ 高分子化合物は、単量体が付加重合や縮合重合で多数結合してできた重合体であることを理解している。 ☐ 合成繊維の量的関係についての問題が解ける。合成繊維を実験により合成できる。	☐ 合成繊維の代表的なものについて、原料、構造、性質、用途を理解している。 ☐ 代表的な合成樹脂の構造、性質を理解している。	☐ 身近にある合成高分子化合物に興味をもっている。 ☐ 繊維について興味をもっている。 ☐ 合成樹脂について興味をもっている。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 思④

		再生繊維を実験により合成できる。 ☐ イオン交換樹脂の構造とそのはたらきについて理解している。合成樹脂を実験により合成できる。また性質を調べられる。 ☐ 合成ゴムの原料，構造や性質を理解している。	☐ 天然ゴムと合成ゴムの原料や構造を理解している。		主① 主② 主③ 主④
3 学 期	共通テスト対策				
	個別学力試験対策				

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教科	理科	科目	生物
学年・類型	3年理系（生物選択）	単位数	4
教科書	生物（数研出版）		
副教材	ニューステージ生物図表（浜島書店）、ニューグローバル生物（東京書籍）		
科目目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。		
学習方法	授業中心の学習を行い、教科書や副教材の他、授業スライドや学習動画などのICTを活用し、知識の習得と科学的思考力を涵養する。また、ポートフォリオを通して学習内容の定着を図る。さらに、身に付けた知識を活かし、考える力を身に付けるために実験を行ったり、定期考査に初見の思考問題を取り入れたりする。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いている。	生物や生物現象を対象に、探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得できている。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力が育まれている。	生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度が養われている。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が養われている。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①定期考査（知能・技能の定着状況を評価する問題を出題） ②リフレクションシート（授業内容の理解度） ③小テスト	①定期考査（思考力・判断力・表現力を評価する問題を出題） ②リフレクションシート（質問への解答） ③小テスト	①課題考査 ②長期休業中の課題の提出状況 ③オンライン課題（スタディサプリ）への提出状況 ④実験レポートの提出状況

各学期及び学年の成績算出方法について	
観点別評価	
知識・技能	40%
思考・判断・表現	40%
主体的に学習に取り組む態度	20%

学 期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価 方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学期	第4章 遺伝情報の発現と発生 第4節 発生と遺伝子発現	☐ ウニの発生過程を理解している。 ☐ カエルの発生過程を理解している。	☐ 胚の中に次々と生じる物質と誘導との関係を説明できる。 ☐ ホメオティック遺伝子に変異が生じると奇形が生じる生物学的な根拠を説明できる。	☐ 生物の変異、特に奇形に興味を持ち、発生学の研究が医学に果たしてきた役割に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 主① 主② 主③ 主④
	第5節 遺伝子を扱う技術	☐ PCR、電気泳動など基本的なバイオテクノロジーの技術の概要を理解している。	☐ 遺伝子組み換え技術について、その詳細な実験のステップと、各ステップで、なぜそのような操作を行う必要があるのか、順序立てて説明できる。	☐ バイオテクノロジーが人類に与えた恩恵に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。	主① 主② 主③ 主④
	第5章 動物の反応と行動 第1節 刺激の受容	☐ 眼の構造及び視覚が生じるしくみを理解している。 ☐ 耳の構造及び聴覚が生じるしくみを理解している。	☐ ヒトとウマ、昆虫などのその他の動物の視覚の違いについて、眼の構造と視細胞の種類を踏まえて説明できる。	☐ ヒトの感覚器の構造に興味を持ち、五感とは何かという問に、主体的に学習に取り組める。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 主① 主② 主③ 主④
	第2節 ニューロンとその興奮	☐ ニューロンの構造を理解している。 ☐ 静止電位と活動電位が発生するしくみを理解している。	☐ 全か無かの法則を踏まえ、静止電位から活動電位が生じるしくみをイオンの移動に着目して説明できる。	☐ 動物が神経を持つ意義に興味を持ち、主体的に学習に取り組める。	思② 思③ 主① 主② 主③ 主④
	第3節 情報の統合	☐ ヒトの脳の構造と、大脳、小脳、間脳、中脳、延髄の脳のはたらきの概要を理解している。 ☐ 脊髄の構造と、脊髄の中で神経がどう配置されているか理解している。	☐ ヒトに見られる膝蓋腱反射や屈筋反射のしくみを説明できる。	☐ 膝蓋腱範囲外にヒトに見られる様々な反射に興味を持ち、主体的に学習に取り組める。	主① 主② 主③ 主④
	第4節 刺激への反応	☐ 筋肉の種類と、各筋肉の構造を理解している。 ☐ 筋肉の疲労とその回復方法を理解している。	☐ 滑り説について、骨格筋の構造を踏まえて、説明できる。 ☐ 単収縮と強縮の違いを筋収縮の特性を踏まえて説明できる。	☐ 普段のヒトの運動のしくみに興味を持ち、この分野に関係の深いスポーツ科学等に興味を持ち、主体的に学習に取り組める。	
	第5節 動物の行動	☐ 固定的動作パターンにはどのような例があるか理解している。 ☐ 学習について、スキナー箱を用いた実験を理解している。	☐ アメフラシの脱慣れと鋭敏化のしくみについて、神経回路と神経伝達物質に言及しながら説明できる。	☐ ヒトの記憶がどのようにして成立しているのかという問に興味を持ち、主体的に学習に取り組める。	

	第6章 植物の環境応答 第1節 植物の生活と植物ホルモン	☐ 植物が発芽し、枯れていくまでの一生の各段階に関与する植物ホルモンと光受容体の種類とはたらきを理解している。	☐ 植物ホルモンの一般的な特徴を説明できる。 ☐ 光受容体とは何か、最近の研究成果を踏まえ説明できる。	☐ この分野と関係が深い農業について、作物の生長と肥料の関わりに興味を持ち、主体的に学習に取り組める。	知① 知② 知③ 思①
	第2節 発芽の調節	☐ ジベレリンの発見の歴史とはたらきを理解している。	☐ 種子の発芽と赤色光との関係について、細胞内での光受容体の変化を踏まえて説明できる。	☐ 発芽に光を必要とする種子と必要としない種子があることに興味を持ち、種子と環境について主体的に学習に取り組める。	思② 思③ 主① 主②
	第3節 成長の調節	☐ 幼葉鞘をもちいたダーウィンの実験について、様々な実験とその結果について理解している。	☐ 根の重力屈性について、オーキシンののはたらきを踏まえて説明できる。	☐ ヒマワリがどうして太陽の方向を向くのかといった様々な植物の現象に興味を持ち、主体的に学習に取り組める。	主③ 主④
2 学期	第4節 器官の分化と花芽形成の調節	☐ 長日植物と短日植物、中性植物の例を挙げ、それらの特徴を理解している。 ☐ ABCモデルについて理解している。	☐ 短日植物がどのような条件で花芽を形成するのか。日長との関係を踏まえて説明できる。	☐ 日本には四季があり、季節ごとに咲く花の種も異なる。植物と季節の関わりに興味を持ち、主体的に学習に取り組める。	知① 知② 知③ 思① 思②
	第5節 環境の変化に対する応答	☐ エチレン、アブシシン酸、ブラシノステロイド、ジャスモン酸のはたらきを理解している。	☐ 植物の寒冷に対する耐性及び食害に対する防衛機能について、どのように植物ホルモンが涵養しているのか説明できる。	☐ 植物は、その場を動くことができない。この観点から植物の特徴に興味を持ち、主体的に学習に取り組める。	思③ 主① 主② 主③ 主④
	第6節 配偶子形成と受精	☐ 花粉の形成、および胚のうの形成について、その過程を理解している。	☐ 被子植物で行われる重複受精について、胚、胚乳、および種皮の核相及び遺伝的構成に触れ、種子がキメラであることを説明できる。	☐ 被子植物以外の裸子植物やシダ植物、コケ植物の繁殖方法にも興味を持ち、主体的に学習に取り組める。	
	問題演習 共通テスト過去問題の分析と対策	☐ 教科書に記載された重要用語の理解が定着している。	☐ 過去の共通テスト問題に取り組む、傾向を分析し、その対策を図ることができる。	☐ 過去の共通テスト問題に取り組んでいる。	
3 学期	問題演習 国公立、難関私立大学個別試験過去問題の分析と対策	☐ 教科書に記載された重要用語の理解がより一層定着している。	☐ 過去の個別試験問題に取り組む、傾向を分析し、その対策を図ることができる。	☐ 過去の個別試験問題に取り組んでいる。	

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教 科	理科	科 目	応用生物
学年・類型	3年・文系	単位数	2
教科書	生物基礎（数研出版）		
副教材	ニューステージ生物図表（浜島書店）、リードα生物基礎（数研出版）		
科目目標	生物基礎で学んだ学習内容をさらに深化させ、生物や生物現象への関心を高め、生物学の基本的な概念や原理・法則の理解を通して知的好奇心をもとに主体的に学び、社会の急速な進展や変化に対して自ら考え対応していくことができる人間を育成することを目指す。		
学習方法	授業中心の学習を行い、教科書や副教材を活用し、基礎知識の確実な習得を目指す。身につけた知識を活かし、思考力を身に付けるために観察・実験を行う。問題演習では生物基礎の学習内容を総復習し、受験に対応できる実践力を身に付ける。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象についての観察、実験などを行うことを通して、生物や生物現象に関する基本的な概念や原理・法則を理解するとともに、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能が身に付いている。	生物や生物現象を対象に、探究の過程を通して、問題を見いだすための観察、情報の収集、仮説の設定、実験の計画、実験による検証、調査、データの分析・解釈、推論などの探究の方法が習得できている。また、報告書を作成したり発表したりして、科学的に探究する力が育まれている。	生物や生物現象に対して主体的に関わり、それらに対する気付きから課題を設定し解決しようとする態度など、科学的に探究しようとする態度が養われている。その際、生命を尊重し、自然環境の保全に寄与する態度が養われている。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①定期考査（知能・技能の定着状況を評価する問題を出題） ②リフレクションシート（授業内容の理解度） ③小テスト	①定期考査（思考力・判断力・表現力を評価する問題を出題） ②リフレクションシート（質問への解答） ③小テスト	①課題考査 ②オンライン課題（スタディサプリ）への提出状況 ③実験レポートの提出状況

各学期及び学年の成績算出方法について	
観点別評価	
知識・技能	40%
思考・判断・表現	40%
主体的に学習に取り組む態度	20%

学 期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価 方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学期	第4章 生物の多様性と生態系 第3節 生態系と生物の多様性	☐ 生態系がどのように構成されているのかを理解できる。 ☐ 生態系において種多様性が維持されるしくみを理解できる。	☐ 生態系における個体数の変化を調べた実験結果に基づき、ある生物が種多様性に対して果たす役割を考察し、説明できる。	☐ 生態系と生物の多様性に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 主① 主② 主③
	第4節 生態系のバランスと保全	☐ 生態系のバランスが保たれているとはどのような状態かを理解できる。 ☐ 生態系の保全のために、どのような活動が行われているかを理解できる。	☐ 生活排水の流入による生物の個体数と水質の変化のグラフをもとに、自然浄化のしくみを考察し、説明できる。 ☐ 外来生物の移入前後の在来魚の漁獲量の変化を示した資料をもとに、外来生物が在来魚に与えた影響を考察し、説明できる。	☐ 生態系のバランスと保全に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 主① 主② 主③

	問題演習 第1章 生物の特徴	☐ 生物が「細胞からできている」、「生命活動にはエネルギーが必要」、「遺伝情報として DNA をもっている」などの共通性をもつことを理解できる。 ☐ 生物のもつ共通性は共通の祖先に由来することを理解できる。生命活動にはエネルギーが必要であり、そのエネルギーは ATP から供給されていることを理解できる。 ☐ ATP が生命活動にエネルギーを供給するしくみについて理解できる。 ☐ 呼吸・光合成の過程で ATP が合成されることを理解できる。酵素の触媒作用と基質特異性について理解できる。 ☐ 生体内の化学反応が、酵素のはたらきによって進行していることを理解できる。	☐ さまざまな哺乳類の比較に基づいて、生物が生息環境に適した形態や機能をもっていることに気づき、説明できる。 ☐ さまざまな生物の比較に基づいて、すべての生物に見られる特徴について考え、共通性を見いだすことができる。 ☐ 原核細胞と真核細胞の共通点と相違点を見いだすことができる。 ☐ 進化の過程において、真核細胞と原核細胞のどちらが先に現れたのか、理由とともに説明することができる。 ☐ 植物がエネルギーを取り入れる方法について説明できる。 ☐ 動物や植物のエネルギーの獲得方法を参考にしながら、菌類や細菌がどのようにエネルギーを獲得しているかを調べ、説明できる。	☐ 生物の多様性と共通性に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。 ☐ エネルギーと代謝に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。 ☐ 呼吸と光合成に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 主① 主② 主③
--	---------------------------	--	--	---	---

2 学 期	第2章 遺伝子とそのはたらき	☐ DNAの構造および塩基の相補性を理解できる。 ☐ DNAの塩基配列が遺伝情報となっていることを理解できる。 ☐ DNAが半保存的複製という方法によって正確に複製されることを理解できる。 ☐ 体細胞分裂の過程でDNAが複製され、分配されることを理解できる。 ☐ DNAの遺伝情報をもとにタンパク質が合成される、転写・翻訳の過程を理解できる。 ☐ 分化した細胞では、細胞ごとに異なる遺伝子が発現していることを理解できる。	☐ DNAの構造を示した模式図に基づいて、塩基の相補性などのDNAの構造の特徴を見いだすことができる。 ☐ 複製前後のDNAの模式図を比較し、DNAの正確な複製には塩基の相補性が利用されていることに気づき、説明できる。 ☐ 細胞当たりのDNA量と細胞数の関係のグラフから、特定の条件で細胞周期の各期の長さを推定できることに気づくことができる。 ☐ DNAの塩基配列と対応するタンパク質のアミノ酸配列を示した資料に基づいて、DNAの塩基配列とタンパク質のアミノ酸配列との関係を見いだすことができる。 ☐ コドンが塩基3個の配列で20個のアミノ酸を指定している理由について考え、説明することができる。 ☐ 分化した細胞と遺伝子発現に関する資料に基づいて考え、からだを構成する細胞において、すべての遺伝子が常に発現しているわけではないことに気づき、各部位で発現する遺伝子の違いによって各細胞が異なる形やはたらきをもっていることを見いだすことができる。	☐ 遺伝情報とDNAに関心を持ち、主体的に学習に取り組める。 ☐ 遺伝情報の複製と分配に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。 ☐ 遺伝情報の発現に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 主① 主② 主③
-------------	----------------	---	---	--	--

	第3章 ヒトの体内環境の維持	☐ 体内での情報伝達が、からだの状態の調節に関係していることを理解できる。 ☐ 自律神経系と内分泌系が、からだを調節するしくみを理解できる。 ☐ 自律神経系と内分泌系のはたらきによって血糖濃度が調節されるしくみを理解できる。 ☐ 糖尿病の原因を理解できる。血液凝固のはたらきについて理解できる。 ☐ 自然免疫・適応免疫のしくみと、それにはたらく細胞の役割を理解できる。 ☐ 免疫記憶のしくみを理解できる。 ☐ 免疫のはたらきが低下したり過敏になったりすることで起こる病気や、免疫のしくみを利用した医療について理解できる。	☐ 身近な事例において、からだの状態がどのように変化するかを交感神経と副交感神経のはたらきに注目して考え、説明することができる。 ☐ 食事の前後での血糖濃度とインスリン濃度の変化のグラフから、血糖濃度とインスリンのはたらきとの関係に気づき、説明することができる。 ☐ 食事の前後でのグルカゴンの血液中の濃度がどのように変化するかを考え、説明することができる。 ☐ 血糖濃度とインスリン濃度の変化の1日のグラフを見て、健康な人と糖尿病患者の血糖濃度やインスリン濃度の変化の違いについて考察することができる。 ☐ I型糖尿病とII型糖尿病の違いに基づいて、糖尿病の検査内容や治療方法について、自ら調べたり、考えたりすることができる。 ☐ 抗原が体内に侵入したときの、抗体の産生量の変化を示したグラフから、同じ感染症に再びかかりにくくなる理由を考えることができる。 ☐ 抗原を接種したとき、その抗原に対する抗体量の変化を推測したり、グラフで示したりすることができる。 ☐ 同じ動物種でつくられた血清を用いた血清療法において、2回目以降にアナフィラキシーショックが起こる可能性がある理由を考えることができる。	☐ 体内での情報伝達と調節に関心をもち、主体的に学習に取り組める。 ☐ 体内環境の維持のしくみに関心をもち、主体的に学習に取り組める。 ☐ 免疫のはたらきに関心をもち、主体的に学習に取り組める。	知① 知② 知③ 思① 思② 思③ 主① 主② 主③
--	-----------------------	---	---	--	---

	問題演習 共通テスト過去問題の分析と 対策	☐ 教科書に記載された重要用語の 理解が定着している。	☐ 過去の共通テスト問題に取り組 み、傾向を分析し、その対策を 図ることができる。	☐ 過去の共通テスト問題に取り組 んでいる。	
3 学 期	問題演習 共通テスト過去問題の分析と 対策	☐ 教科書に記載された重要用語の 理解が定着している。	☐ 過去の共通テスト問題に取り組 み、傾向を分析し、その対策を 図ることができる。	☐ 過去の共通テスト問題に取り組 んでいる。	

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教 科	理科	科 目	応用地学
学年・類型	3	単位数	2
教科書	センサー地学基礎		
副教材	ニューステージ地学図表 高等学校地学基礎 地学基礎研究ノート		
科目目標	地学基礎で学んだ学習内容をさらに深化させ、日常生活や社会との関連を重視しながら、地球や宇宙という巨大な複合システムを統合的な視点から理解し、知的好奇心をもとに主体的に学び、社会の急速な進展や変化に対して自ら考え対応していくことができる人間を育成することを目指す。		
学習方法	授業中心の学習を行い、教科書や副教材を活用し、基礎知識の確実な習得を目指す。身につけた知識を活かし、思考力を身につけるために実習を行う。問題演習では地学基礎の学習内容を総復習し、受験に対応できる実践力を身につける。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができています。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけている。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしている。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①定期考査 ②小テスト	①定期考査 ②探究活動のレポート （自分の考えをどれだけいれているか）	①課題 ②探究活動のレポート （調べた文献の量） ③課題考査

各学期及び学年の成績算出方法について	
知識技能	・・・40%
思考・判断・表現	・・・40%
主体的に学習に取り組む態度	・・・20%

学 期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価 方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	第3部 宇宙の誕生 第1章 宇宙の誕生 1 宇宙の誕生 2 銀河 3 恒星の誕生 4 太陽の概観	☐ 宇宙の誕生について理解することができる。 ☐ 恒星としての太陽の誕生について理解することができる。	☐ 宇宙の誕生と恒星としての太陽の誕生について考えることができる。 ☐ 太陽系の各天体の違いを比較し、地球が生命を生み出す環境となった理由について考えることができる。	☐ 宇宙と太陽の誕生の経緯に興味をもち、宇宙の誕生と恒星としての太陽の誕生について調べようとする。	知① 思① 主①
	第2章 地球と生命の進化 1 先カンブリア時代 2 顕生代	☐ 地球の誕生から生命の出現に至る地球の歴史について理解することができる。 ☐ 古生物の変遷に基づいて地質年代が区分されることについて理解することができる。	☐ 地球が誕生してからの大気と海洋の変化と、生命の出現に至る地球の歴史について考えることができる。 ☐ 大気や海洋、気候などの地球環境の変化と生物の活動の相互関係について考えることができる。	☐ 地球の歴史に興味をもち、地球の誕生から生命の出現に至る地球の歴史について調べようとする。	知① 知② 思① 主① 主③
	第1部 固体地球とその変動 第1章 地球の形と構造 1 地球の概観 2 地球の内部構造	☐ 地球の形と大きさについて理解することができる。 ☐ 地形図を用いて、地球の大きさを求めることができる。 ☐ 地震波の伝わり方や走時曲線に基づいて、地球の内部構造や、地球内部を構成する物質について理解することができる。	☐ 地球の形と大きさについて、観察や測定の結果などから考えることができる。 ☐ 地震波の伝わり方についての資料に基づいて、地球の内部構造や、地球内部を構成する物質について考えることができる。	☐ 地球の特徴に興味をもち、地球の形と大きさについて調べようとする。 ☐ 地球の特徴に興味をもち、地球の内部構造について調べようとする。	知① 思① 主①
	第2章 プレートと地震 1 プレートテクトニクスと地球の活動 2 地震	☐ 3種類のプレート境界について理解することができる。 ☐ プレート運動に伴う大地形や地質構造、変成岩の形成について理解することができる。 ☐ 地震波の伝わり方や走時曲線に基づいて、地球の内部構造や、地球内部を構成する物質について理解することができる。	☐ 地球表面を覆うプレートの構造と分布、プレート境界と海底の大地形との関係について考えることができる。 ☐ 地震波の伝わり方についての資料に基づいて、地球の内部構造や、地球内部を構成する物質について考えることができる。	☐ 私たちの住む日本列島に関心をもち、島弧としての日本列島の地学的な特徴と形成史について、プレート運動と関連づけて調べようとする。	知① 思① 思② 主①

	第3章 火山と火成岩 1 火山活動 2 火成岩の形成	☐ プレート境界やプレート内部における火山分布や火山活動の特徴を理解することができる。 ☐ 組織と造岩鉱物の組成に基づく火成岩の分類を理解することができる。島弧－海溝系における火成活動の特徴を、マグマの発生と文化および火成岩の形成と関連づけて理解することができる。	☐ 火山活動のしくみをプレート運動と関連づけて考えることができる。	☐ 地震と地殻変動、火成活動、変成作用と変成岩などの地球の活動に関心を持ち、プレート運動と関連づけて調べようとする。	
2 学 期	第2部 大気と海洋 第1章 大気の構造 1 大気圏 2 水と気象	☐ 大気圏の層構造について理解することができる。 ☐ 雲の発生のしくみを理解することができる。	☐ 大気の組成と各圏の特徴について考えることができる。 ☐ 雲の発生のしくみについて、大気中の水蒸気のふるまいと関連づけて考えることができる。	☐ 地球が宇宙との間でエネルギーを吸収・放出していることに興味をもち、地球全体のエネルギー収支について調べようとする。	知① 思① 主①
	第2章 太陽放射と大気・海水の運動 1 地球のエネルギー収支 2 大気の大循環 3 海水の循環	☐ 地球全体のエネルギー収支が釣り合っていることを理解することができる。 ☐ 大気の大循環によって低緯度から高緯度へ熱が輸送されていることを理解することができる。	☐ 地球全体のエネルギー収支について考えることができる。 ☐ 大気の大循環による熱の輸送について考えることができる。	☐ 地球が宇宙との間でエネルギーを吸収・放出していることに興味をもち、地球全体のエネルギー収支について調べようとする。	知① 思① 思② 主①
	問題演習（共通テスト対策）	☐ 地球および宇宙全般のことを理解することができる。	☐ 地球全般のことを理解し、問題に触れることでそれぞれの分野を関連づけて考えることができる。	☐ 地球のことに興味を持ち、それぞれを分野を関連付けて調べようとしている。	知① 思① 主①
3 学 期	問題演習（共通テスト対策）	☐ 地球および宇宙全般のことを理解することができる。	☐ 地球全般のことを理解し、問題に触れることでそれぞれの分野を関連づけて考えることができる。	☐ 地球のことに興味を持ち、それぞれを分野を関連付けて調べようとしている。	

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教 科	保健体育	科 目	体育
学年・類型	3 学年・全クラス	単位数	2
教科書	現代高等保健体育		
副教材	現代高等保健体育ノート		
科目目標	体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を育成することを目指す。		
学習方法	第一体育館・第二体育館・グラウンド・25mプールなどの体育施設を活用し、多種多様な実技を行う。自己の課題(体力面・技能面・精神面)を改善・向上に向け取り組み、個人学習カードを活用して活動の見直しや振り返りを行う。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けている。	生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を身に付けている。	運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を身に付けている。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①運動技能テスト・記録測定 ②発表会の内容 ③授業への取組状況	①グループノートや個人学習カードの内容 ②発表会の活動状況 ③授業への取組状況	①授業への取組状況 ②グループノートや個人学習カードの提出状況

各学期及び学年の成績算出方法について	
観点別評価	
知識・技能	40%
思考・判断・表現	30%
主体的に学習に取り組む態度	30%

学期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学期	体づくり運動 体力を高める運動 ラジオ体操第2 スポーツテスト	☐ 体力を高める運動の仕方について理解し、実践できる。 ☐ ラジオ体操第2について効果を理解し、正しく、力強く行うことができる。	☐ 自己の体力課題をみつけ、体力向上に向け継続的に取り組むことができる。 ☐ 仲間と教え合いながらラジオ体操第2を覚え、自己の体を正しく動かすことができる。	☐ 仲間と協力して運動に対して積極的に取り組んでいる。 ☐ 日々体調の管理を行い、授業に参加している。	知① 知③ 思① 思③ 主① 主②
	選択球技Ⅰ バスケット・バレー バドミントン・卓球・サッカー・ソフトボール	☐ 各種目の運動に関連した名称や運動の特性やルールについて理解し、体力向上に向けた実践ができる。	☐ 運動の行い方や攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫している。	☐ 協力して準備や片付けをしている。 ☐ 球技の学習に自主的に取り組もうとしている。	
	体育理論 豊かなスポーツライフの設計	☐ 各ライフステージに応じたスポーツの多様な楽しみ方や、ライフスタイルに応じたスポーツとの関わり方を見付けることができる。	☐ スポーツとの関わり方について、自己や自己を取り巻く環境の変化を予想し、自己や社会についての課題を発見している。	☐ 豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に、主体的に取り組もうとしている。	知③ 思③ 主①
2 学期	選択球技Ⅱ バスケット・バレー バドミントン・卓球 サッカー・ソフトボール	☐ 各種目の運動に関連した名称や運動の特性やルールについて理解し、体力向上に向け実践できる。	☐ 運動の行い方や攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫している。	☐ 協力して準備や片付けをしている。 ☐ 球技の学習に自主的に取り組もうとしている。	知① 知③ 思① 思③ 主① 主②
	体育理論 豊かなスポーツライフの設計	☐ スポーツの推進を図る施策や条件整備が進められていること、スポーツを行う適切な関わり方が求められていることについて理解している。	☐ 将来の豊かなスポーツライフの実現に向けた課題のよりよい解決に向けて、自己の考えを言葉や文章などを通して他者に筋道を立てて伝えている。	☐ 豊かなスポーツライフの設計の仕方についての学習に、主体的に取り組もうとしている。	知③ 思③ 主①
学 期	選択球技Ⅲ バスケット・バレー バドミントン・卓球 サッカー・ソフトボール	☐ 各種目の運動に関連した名称や運動の特性やルールについて理解し、体力向上に向けた実践ができる。	☐ 運動の行い方や攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫している。	☐ 協力して準備や片付けをしている。 ☐ 球技の学習に自主的に取り組もうとしている。	知② 思② 主① 主②

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教 科	外国語（英語）	科 目	英語コミュニケーションⅢ
学年・類型	3年・文系	単位数	4
教科書	ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATION III （東京書籍）		
副教材	Listening Essentials 2.5		
科目目標	基本的語彙力、読解力を高めるために、粘り強く英文を読み解く姿勢を涵養する。教科書に即したワークシートを活用して記述力を高める。問題集に移行後は、様々なタイプの問題に対応する答案作成力を養成する。大学入試に出題される様々なジャンルの英文を読み解き、スキーマの充実を図る。		
学習方法	教科書や副教材を中心に、習得した知識を活用して読解する。また、グループワーク等を通して、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を養う。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 情報や考えを理解するために必要となる語彙や表現、音声などを理解している。 ・ 社会的な話題についての情報や考えなどを根拠や理由、例示などを明らかにしながら読解する技能を身に付けている。	・ 書き手の考えを理解するうえで背景スキーマを活用しつつ読解し、社会的な課題や現状を把握することができる。また、聞いたり読んだりしたことを基に理由と共に話して伝えることができる。	・ 書き手の考えを理解するうえで背景スキーマを活用しつつ読解し、社会的な課題や現状を把握しようとしている。また、聞いたり読んだりしたことを基に理由と共に話して伝えようとしている。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①定期考査 ②小テスト ③授業への取組 ④パフォーマンステスト	①定期考査 ②小テスト ③課題の内容 ④授業への取組 ⑤パフォーマンステスト	①課題の取組や提出 ②授業への取組 ③パフォーマンステスト ④課題考査

各学期及び学年の成績算出方法について
観点別評価 ・ 知識・技能 40％ ・ 思考・判断・表現 40％ ・ 主体的に学習に取り組む態度 20％

学期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学期	Unit 1 What thinking and study habits can help us succeed?	☐ [知識] 共感の気持ちを示したり、助言を伝え合ったりするための適切な表現や方法を理解している。 ☐ [技能] よくある勉強の悩みについて、共感の気持ちを示したり、助言を伝え合ったりするための適切な表現や方法を用いて、情報を詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させる技能を身に付けている。	☐ 問題を解決するために、よくある勉強の悩みについて、共感の気持ちを示したり、助言を伝え合ったりして、情報を詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させている。	☐ 問題を解決するために、よくある勉強の悩みについて、共感の気持ちを示したり、助言を伝え合ったりして、情報を詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させようとしている。	知① 知② 知③ 知④ 思① 思② 思③ 思④ 思⑤ 主① 主② 主③
	Unit 2 How can we use AI to improve education?	☐ [知識] 人工知能が教育にもたらす利点について、自分の考えを知ってもらうために、聞いたり読んだりしたことを基に、理由や根拠を示しながら、意見や考えを論理的に詳しく書いて伝えている。	☐ 人工知能が教育にもたらす利点について、自分の考えを知ってもらうために、聞いたり読んだりしたことを基に、理由や根拠を示しながら、意見や考えを論理的に詳しく書いて伝えている。	☐ 人工知能が教育にもたらす利点について、自分の考えを知ってもらうために、聞いたり読んだりしたことを基に、理由や根拠を示しながら、意見や考えを論理的に詳しく書いて伝えようとしている。	
	Unit 3 What do folktales tell us about human values?	☐ [知識] ・民話の内容を効果的に伝える方法を理解している。 ・民話で使われる文の形・意味・用法を理解している。 ☐ [技能] 民話で使われる文の理解を基に、聞き手にわかりやすく民話の内容を伝えたり、変更した民話の内容を詳しく話して伝えたりする技能を身に付けている。	☐ 民話を自分なりに解釈して考えを深めるために、聞いたり読んだりしたことを基に、聞き手にわかりやすく民話の内容を伝えたり、変更した民話の内容を詳しく話して伝えたりしている。	☐ 民話を自分なりに解釈して考えを深めるために、聞いたり読んだりしたことを基に、聞き手にわかりやすく民話の内容を伝えたり、変更した民話の内容を詳しく話して伝えたりしようとしている。	

	Unit 4 What items would you place in a time capsule?	☐ [知識] 賛成・反対したり、選択を伝え合って結論を得たりするための適切な表現や方法を理解している。 ☐ [技能] タイムカプセルで残したいものについて、賛成・反対したり、選択を伝え合って結論を得たりするための適切な表現や方法を用いて、意見や考えを理由とともに詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させる技能を身に付けている。	☐ 互いが納得できる結論を得るために、タイムカプセルで残したいものについて、賛成・反対したり、選択を伝え合ったりして、意見や考えを理由とともに詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させている。	☐ 互いが納得できる結論を得るために、タイムカプセルで残したいものについて、賛成・反対したり、選択を伝え合ったりして、意見や考えを理由とともに詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させようとしている。	
2 学 期	Unit 5 What are the rewards and challenges of living in a different culture?	☐ [知識] 2つの観点を対比しながら自分の意見を述べる論説文の構成や表現を理解している。 ☐ [技能] 異文化の中で暮らすことの長所・短所について、2つの観点を対比しながら意見を述べる論説文の構成や表現を用いて、論理的に詳しく書いて伝える技能を身に付けている。	☐ 異文化の中で暮らすことの長所・短所について、自分の考えを知ってもらうために、2つの観点を対比しながら、意見や考えを論理的に詳しく書いて伝えている。	☐ 異文化の中で暮らすことの長所・短所について、自分の考えを知ってもらうために、2つの観点を対比しながら、意見や考えを論理的に詳しく書いて伝えようとしている。	知① 知② 知③ 知④ 思① 思② 思③ 思④ 思⑤ 主① 主② 主③
	Unit 6 How can art be made accessible to all?	☐ [知識] 芸術作品を描写したり、作品の感想を述べ合ったりするための適切な表現や方法を理解している。 ☐ [技能] 芸術作品について、作品を描写したり、作品の感想を述べ合ったりするための適切な表現や方法を用いて、情報や考えを即興で詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展	☐ 芸術作品を楽しみ、それぞれの感じ方の違いに気付くために、作品の描写や感想を即興で詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させている。	☐ 芸術作品を楽しみ、それぞれの感じ方の違いに気付くために、作品の描写や感想を即興で詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させようとしている。	

		させる技能を身に付けている。			
	Unit 7 How can we preserve life below water?	☐ [知識] 問題と解決策を説明する論説文の構成や表現を理解している。 ☐ [技能] 問題と解決策を説明する論説文の構成や表現の知識を基に、身近な魚の現状について、論理的に詳しく書いて伝える技能を身に付けている。	☐ 身近な魚の現状について知ってもらうために、聞いたり読んだりしたことを基に、その生態や問題、解決策を明らかにしながら、英文を推敲するなどして、情報や考えを論理的に詳しく書いて伝えている。	☐ 身近な魚の現状について知ってもらうために、聞いたり読んだりしたことを基に、その生態や問題、解決策を明らかにしながら、英文を推敲するなどして、情報や考えを論理的に詳しく書いて伝えようとしている。	
	Unit 8 Is there anything money can't buy?	☐ [知識] 提案や異議を述べたり、相手に配慮しながら意見を伝え合ったり、話し合いを帰結させたりするための適切な表現や方法を理解している。 ☐ [技能] 提案や異議を述べたり、相手に配慮しながら意見を伝え合ったり、話し合いを帰結させたりするための適切な表現や方法を用いながら、学校の命名権について、情報や考えを論理的に詳しく話して伝え合う技能を身に付けている。	☐ 話し合いを帰結させて問題を解決できるように、学校の命名権について、聞いたり読んだりしたことを基に、相手の主張を正確に把握しながら、情報や考えを論理的に詳しく話して伝え合っている。	☐ 話し合いを帰結させて問題を解決できるように、学校の命名権について、聞いたり読んだりしたことを基に、相手の主張を正確に把握しながら、情報や考えを論理的に詳しく話して伝え合おうとしている。	
3 学期	特別時間割授業	☐ 語彙力や文法・構文力をもとに、時間内に問題を解きあげる速読力と情報検索力を身に付けている。	☐ 各大学の様々な入試問題に対して語彙や文法・構文力を駆使して解答することができる。	☐ 各大学の様々な入試問題に対して語彙や文法・構文力を駆使して解答しようとしている。	

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教 科	外国語（英語）	科 目	英語コミュニケーションⅢ
学年・類型	3年・理系	単位数	3
教科書	ENRICH LEARNING ENGLISH COMMUNICATION III （東京書籍）		
副教材	Listening Essentials 2.5		
科目目標	基本的語彙力、読解力を高めるために、粘り強く英文を読み解く姿勢を涵養する。教科書に即したワークシートを活用して記述力を高める。問題集に移行後は、様々なタイプの問題に対応する答案作成力を養成する。大学入試に出題される様々なジャンルの英文を読み解き、スキーマの充実を図る。		
学習方法	教科書や副教材を中心に、習得した知識を活用して読解する。また、グループワーク等を通して、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を養う。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・ 情報や考えを理解するために必要となる語彙や表現、音声などを理解している。 ・ 社会的な話題についての情報や考えなどを根拠や理由、例示などを明らかにしながら読解する技能を身に付けている。	・ 書き手の考えを理解するうえで背景スキーマを活用しつつ読解し、社会的な課題や現状を把握することができる。また、聞いたり読んだりしたことを基に理由と共に話して伝えることができる。	・ 書き手の考えを理解するうえで背景スキーマを活用しつつ読解し、社会的な課題や現状を把握しようとしている。また、聞いたり読んだりしたことを基に理由と共に話して伝えようとしている。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①定期考査 ②小テスト ③授業への取組 ④パフォーマンステスト	①定期考査 ②小テスト ③課題の内容 ④授業への取組 ⑤パフォーマンステスト	①課題の取組や提出 ②授業への取組 ③パフォーマンステスト ④課題考査

各学期及び学年の成績算出方法について
観点別評価 ・ 知識・技能 40％ ・ 思考・判断・表現 40％ ・ 主体的に学習に取り組む態度 20％

学期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学期	Unit 1 What thinking and study habits can help us succeed?	☐ [知識] 共感の気持ちを示したり、助言を伝え合ったりするための適切な表現や方法を理解している。 ☐ [技能] よくある勉強の悩みについて、共感の気持ちを示したり、助言を伝え合ったりするための適切な表現や方法を用いて、情報を詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させる技能を身に付けている。	☐ 問題を解決するために、よくある勉強の悩みについて、共感の気持ちを示したり、助言を伝え合ったりして、情報を詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させている。	☐ 問題を解決するために、よくある勉強の悩みについて、共感の気持ちを示したり、助言を伝え合ったりして、情報を詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させようとしている。	知① 知② 知③ 知④ 思① 思② 思③ 思④ 思⑤ 主① 主② 主③
	Unit 2 How can we use AI to improve education?	☐ [知識] 人工知能が教育にもたらす利点について、自分の考えを知ってもらうために、聞いたり読んだりしたことを基に、理由や根拠を示しながら、意見や考えを論理的に詳しく書いて伝えている。	☐ 人工知能が教育にもたらす利点について、自分の考えを知ってもらうために、聞いたり読んだりしたことを基に、理由や根拠を示しながら、意見や考えを論理的に詳しく書いて伝えている。	☐ 人工知能が教育にもたらす利点について、自分の考えを知ってもらうために、聞いたり読んだりしたことを基に、理由や根拠を示しながら、意見や考えを論理的に詳しく書いて伝えようとしている。	
	Unit 3 What do folktales tell us about human values?	☐ [知識] ・民話の内容を効果的に伝える方法を理解している。 ・民話で使われる文の形・意味・用法を理解している。 ☐ [技能] 民話で使われる文の理解を基に、聞き手にわかりやすく民話の内容を伝えたり、変更した民話の内容を詳しく話して伝えたりする技能を身に付けている。	☐ 民話を自分なりに解釈して考えを深めるために、聞いたり読んだりしたことを基に、聞き手にわかりやすく民話の内容を伝えたり、変更した民話の内容を詳しく話して伝えたりしている。	☐ 民話を自分なりに解釈して考えを深めるために、聞いたり読んだりしたことを基に、聞き手にわかりやすく民話の内容を伝えたり、変更した民話の内容を詳しく話して伝えたりしようとしている。	

	Unit 4 What items would you place in a time capsule?	☐ [知識] 賛成・反対したり、選択を伝え合って結論を得たりするための適切な表現や方法を理解している。 ☐ [技能] タイムカプセルで残したいものについて、賛成・反対したり、選択を伝え合って結論を得たりするための適切な表現や方法を用いて、意見や考えを理由とともに詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させる技能を身に付けている。	☐ 互いが納得できる結論を得るために、タイムカプセルで残したいものについて、賛成・反対したり、選択を伝え合ったりして、意見や考えを理由とともに詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させている。	☐ 互いが納得できる結論を得るために、タイムカプセルで残したいものについて、賛成・反対したり、選択を伝え合ったりして、意見や考えを理由とともに詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させようとしている。	
2 学 期	Unit 5 What are the rewards and challenges of living in a different culture?	☐ [知識] 2つの観点を対比しながら自分の意見を述べる論説文の構成や表現を理解している。 ☐ [技能] 異文化の中で暮らすことの長所・短所について、2つの観点を対比しながら意見を述べる論説文の構成や表現を用いて、論理的に詳しく書いて伝える技能を身に付けている。	☐ 異文化の中で暮らすことの長所・短所について、自分の考えを知ってもらうために、2つの観点を対比しながら、意見や考えを論理的に詳しく書いて伝えている。	☐ 異文化の中で暮らすことの長所・短所について、自分の考えを知ってもらうために、2つの観点を対比しながら、意見や考えを論理的に詳しく書いて伝えようとしている。	知① 知② 知③ 知④ 思① 思② 思③ 思④ 思⑤ 主① 主② 主③
	Unit 6 How can art be made accessible to all?	☐ [知識] 芸術作品を描写したり、作品の感想を述べ合ったりするための適切な表現や方法を理解している。 ☐ [技能] 芸術作品について、作品を描写したり、作品の感想を述べ合ったりするための適切な表現や方法を用いて、情報や考えを即興で詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展	☐ 芸術作品を楽しみ、それぞれの感じ方の違いに気付くために、作品の描写や感想を即興で詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させている。	☐ 芸術作品を楽しみ、それぞれの感じ方の違いに気付くために、作品の描写や感想を即興で詳しく話して伝え合うやり取りを続け、会話を発展させようとしている。	

		させる技能を身に付けている。			
	Unit 7 How can we preserve life below water?	☐ [知識] 問題と解決策を説明する論説文の構成や表現を理解している。 ☐ [技能] 問題と解決策を説明する論説文の構成や表現の知識を基に、身近な魚の現状について、論理的に詳しく書いて伝える技能を身に付けている。	☐ 身近な魚の現状について知ってもらうために、聞いたり読んだりしたことを基に、その生態や問題、解決策を明らかにしながら、英文を推敲するなどして、情報や考えを論理的に詳しく書いて伝えている。	☐ 身近な魚の現状について知ってもらうために、聞いたり読んだりしたことを基に、その生態や問題、解決策を明らかにしながら、英文を推敲するなどして、情報や考えを論理的に詳しく書いて伝えようとしている。	
	Unit 8 Is there anything money can't buy?	☐ [知識] 提案や異議を述べたり、相手に配慮しながら意見を伝え合ったり、話し合いを帰結させたりするための適切な表現や方法を理解している。 ☐ [技能] 提案や異議を述べたり、相手に配慮しながら意見を伝え合ったり、話し合いを帰結させたりするための適切な表現や方法を用いながら、学校の命名権について、情報や考えを論理的に詳しく話して伝え合う技能を身に付けている。	☐ 話し合いを帰結させて問題を解決できるように、学校の命名権について、聞いたり読んだりしたことを基に、相手の主張を正確に把握しながら、情報や考えを論理的に詳しく話して伝え合っている。	☐ 話し合いを帰結させて問題を解決できるように、学校の命名権について、聞いたり読んだりしたことを基に、相手の主張を正確に把握しながら、情報や考えを論理的に詳しく話して伝え合おうとしている。	
3 学期	特別時間割授業	☐ 語彙力や文法・構文力をもとに、時間内に問題を解きあげる速読力と情報検索力を身に付けている。	☐ 各大学の様々な入試問題に対して語彙や文法・構文力を駆使して解答することができる。	☐ 各大学の様々な入試問題に対して語彙や文法・構文力を駆使して解答しようとしている。	

令和7年度（2025年度）八代高等学校シラバス

教 科	外国語（英語）	科 目	論理・表現Ⅲ
学年・類型	3年	単位数	2
教科書	Vision Quest English Logic and Expression Ⅲ（論Ⅲ706）		
副教材	入試必携英作文 Write to the point		
科目目標	2年次に学習した基本的な例文や構文知識をもとに、根拠に基づいた意見の主張や、完成度の高い英文表現ができるようになることを目指す。		
学習方法	習得した知識を活用し、アウトプット活動でのペアワークやグループワーク等を通して、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度を養う。		

評価の観点		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
〔知識〕 英語の特徴やきまりに関する事項及びその働きや役割を理解している。 〔技能〕 目的や場面、状況に応じて、自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりして伝え合っている。	目的や場面、状況に応じて、自分の意見や主張などを論理の構成や展開を工夫して、詳しく話したり書いたりして伝え合っている。	外国語の背景にある文化に対する理解を深め、聞き手・読み手など他者に配慮しながら、主体的・自律的に表現しようとしている。

評価方法		
知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①定期考査 ②小テスト ③授業への取組 ④パフォーマンステスト	①定期考査 ②小テスト ③課題の内容 ④授業への取組 ⑤パフォーマンステスト	①課題の取組や提出 ②授業への取組 ③パフォーマンステスト ④課題考査

各学期及び学年の成績算出方法について
観点別評価 知識・技能 40% 思考・判断・表現 40% 主体的に学習に取り組む態度 20%

学 期	学習内容	評価規準（到達目標B規準）と到達度チェック（自己評価）			評価 方法
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	
1 学 期	Lesson 1 学習／言語 Friendship and improvement	☐ 話題 学生の悩み解決：留学中の2人の日本人学生から送られた相談メールを読んで、それぞれの悩みを解決する。	☐ 表現 助言 (Advice)：助言を与える表現を理解し、場面や状況、目的に応じた適切な文を組み立てる。 ☐ 論理 パラグラフ [書くこと]：留学中の学生に悩みの解決策を助言するために、論理的な構成や展開を工夫して書いて伝える。	☐ 表現 助言 (Advice)：助言を与える表現を理解し、場面や状況、目的に応じた適切な文を組み立てようとする。 ☐ 論理 パラグラフ [書くこと]：留学中の学生に悩みの解決策を助言するために、論理的な構成や展開を工夫して書いて伝えようとする。	知① 知② 知③ 知④ 思① 思② 思③ 思④ 思⑤ 主① 主② 主③
	Lesson 2 学習／言語 Which is better, a paper or an electronic dictionary?	☐ 話題 紙の辞書と電子辞書：書店で販売員が話す「紙の辞書」と「電子辞書」の説明を聞いて、それぞれの特徴や違いを理解する。	☐ 表現 譲歩 (Concession)：譲歩する表現を理解し、場面や状況、目的に応じた適切な文を組み立てる。 ☐ 論理 プレゼンテーション [話すこと (発表)]：初級言語学習者は「紙の辞書」と「電子辞書」のどちらを使うのが良いかについて、自分の意見を論理的な構成や展開を工夫して話して伝える。	☐ 表現 譲歩 (Concession)：譲歩する表現を理解し、場面や状況、目的に応じた適切な文を組み立てようとする。 ☐ 論理 プレゼンテーション [話すこと (発表)]：初級言語学習者は「紙の辞書」と「電子辞書」のどちらを使うのが良いかについて、自分の意見を論理的な構成や展開を工夫して話して伝えようとする。	
	Lesson 3 心理 Can you change your personality?	☐ 話題 悩み相談コラム：相談コラムに寄せられた性格に関する悩みと返信の投稿を読んで、悩みと助言を理解する。	☐ 表現 関係 (Relationship)：物事の間接を表す表現を理解し、場面や状況、目的に応じた適切な文を組み立てる。 ☐ 論理 パラグラフ [書くこと]：自分の性格について、子供の頃の性格と比較しながら、理由や具体例とともに、論理的な構成や展開を工夫して書いて伝える。	☐ 表現 関係 (Relationship)：物事の間接を表す表現を理解し、場面や状況、目的に応じた適切な文を組み立てようとしている。 ☐ 論理 パラグラフ [書くこと]：自分の性格について、子供の頃の性格と比較しながら、理由や具体例とともに、論理的な構成や展開を工夫して書いて伝えようとしている。	

Lesson 4 心理 How do we make decisions?	☐ 話題 決断:心理学の授業で、2つの異なる「決断スタイル」に関する講義を聞いて、それぞれの特徴や違いを理解する。	☐ 表現 判断の根拠 (Bases of decisions): 判断の根拠を表す表現を理解し、場面や状況、目的に応じた適切な文を組み立てる。 ☐ 論理 パラグラフ [書くこと]: これまで重大な決断について、いつどのように決断したか、また決断の結果について、論理的な構成や展開を工夫して書いて伝える。	☐ 表現 判断の根拠 (Bases of decisions): 判断の根拠を表す表現を理解し、場面や状況、目的に応じた適切な文を組み立てようとしている。 ☐ 論理 パラグラフ [書くこと]: これまで重大な決断について、いつどのように決断したか、また決断の結果について、論理的な構成や展開を工夫して書いて伝えようとしている。
Lesson 5 医療／健康 Online doctor consultations	☐ 話題 オンライン診療: 留学中にインターネットで調べた病院のウェブサイトを見て、オンライン診療と対面診療の利点について考える。	☐ 表現 代替 (Alternative): 代替を表す表現を理解し、場面や状況、目的に応じた適切な文を組み立てる。 ☐ 論理 パラグラフ [書くこと]: オンライン診療と対面診療の利点について考え、どちらがより良いと思うかについて、論理的な構成や展開を工夫して書いて伝える。	☐ 表現 代替 (Alternative): 代替を表す表現を理解し、場面や状況、目的に応じた適切な文を組み立てようとしている。 ☐ 論理 パラグラフ [書くこと]: オンライン診療と対面診療の利点について考え、どちらがより良いと思うかについて、論理的な構成や展開を工夫して書いて伝えようとしている。
Lesson 6 医療／健康 Healthy lifestyle	☐ 話題 健康的なライフスタイル: クラスメートのジェイクと沙也加との会話を聞いて、ジェイクの状況や問題点を理解し、健康的な生活へのアドバイスを考える。	☐ 表現 結果 (Result): 結果を表す表現を理解し、場面や状況、目的に応じた適切な文を組み立てる。 ☐ 論理 パラグラフ [書くこと]: ジェイクのクラスメートとして、生活の問題点と改善策を示して助言するため、論理的な構成や展開を工夫して書いて伝える。	☐ 表現 結果 (Result): 結果を表す表現を理解し、場面や状況、目的に応じた適切な文を組み立てようとしている。 ☐ 論理 パラグラフ [書くこと]: ジェイクのクラスメートとして、生活の問題点と改善策を示して助言するため、論理的な構成や展開を工夫して書いて伝えようとしている。
2 学期 Lesson 7 異文化 What do you do after school?	☐ 話題 部活動の違い: 日本とアメリカの部活動の形態について、やり取りされる学生同士のメール文を読んで、それぞれの部活動の特徴や違いを理解する。	☐ 表現 物事の正負の影響 (Positive and negative affects): 物事の正負の影響に関する表現を理解し、場面や状況、目的に応じた適切な文を組み立てる。 ☐ 論理 パラグラフ [書くこと]: アメリカの部活動と日本の部活動の形態のどちらが良いと思うかについて、自分の経験を踏まえて、自分の意見を理由や具	☐ 表現 物事の正負の影響 (Positive and negative affects): 物事の正負の影響に関する表現を理解し、場面や状況、目的に応じた適切な文を組み立てようとしている。 ☐ 論理 パラグラフ [書くこと]: アメリカの部活動と日本の部活動の形態のどちらが良いと思うかについて、自分の経験を踏まえて、自分の意見を

知①
知②
知③
知④
思①
思②
思③
思④
思⑤
主①

		体例などとともに、論理的な構成や展開を工夫して書いて伝える。	理由や具体例などとともに、論理的な構成や展開を工夫して書いて伝えようとしている。	主② 主③
Lesson 8 異文化 Direct and indirect ways of communication	□ 話題 コミュニケーションの方法：2つのコミュニケーション文化（高コンテキストと低コンテキスト）について話される講義を聞いて、それぞれの特徴や違いを理解する。	□ 表現 差異 (Differences)：差異を表す表現を理解し、場面や状況、目的に応じた適切な文を組み立てる。 □ 論理 パラグラフ [書くこと]：日本人にとって、高コンテキストのコミュニケーションが有益かどうかについて、自分の考えを理由や具体例などとともに、論理的な構成や展開を工夫して書いて伝える。	□ 表現 差異 (Differences)：差異を表す表現を理解し、場面や状況、目的に応じた適切な文を組み立てようとしている。 □ 論理 パラグラフ [書くこと]：日本人にとって、高コンテキストのコミュニケーションが有益かどうかについて、自分の考えを理由や具体例などとともに、論理的な構成や展開を工夫して書いて伝えようとしている。	
Lesson 9 情報化社会 Should we use social media?	□ 話題 SNS の好影響と悪影響：SNS のプラス面とマイナス面について書かれた記事を読んで、SNS が日常生活に与える影響について考える。	□ 表現 類似 (Similarity)：類似を表す表現を理解し、場面や状況、目的に応じた適切な文を組み立てる。 □ 論理 パラグラフ [書くこと]：SNS の使用のメリットとデメリットについて、自分の考えを理由や具体例などとともに、論理的な構成や展開を工夫して書いて伝える。	□ 表現 類似 (Similarity)：類似を表す表現を理解し、場面や状況、目的に応じた適切な文を組み立てようとしている。 □ 論理 パラグラフ [書くこと]：SNS の使用のメリットとデメリットについて、自分の考えを理由や具体例などとともに、論理的な構成や展開を工夫して書いて伝えようとしている。	
Lesson 10 情報化社会 Are you a good user of social media?	□ 話題 SNS 上のトラブル：学生に頻発する SNS 上のトラブルについて話される講義を聞いて、その問題点や予防のために必要なスキルを理解する。	□ 表現 理由 (Reasons)：理由を表す表現を理解し、場面や状況、目的に応じた適切な文を組み立てる。 □ 論理 パラグラフ [書くこと]：SNS の適切な使用を奨励するために、自分の考えを理由や具体例などとともに、論理的な構成や展開を工夫して書いて伝える。	□ 表現 理由 (Reasons)：理由を表す表現を理解し、場面や状況、目的に応じた適切な文を組み立てようとしている。 □ 論理 パラグラフ [書くこと]：SNS の適切な使用を奨励するために、自分の考えを理由や具体例などとともに、論理的な構成や展開を工夫して書いて伝えようとしている。	

	Lesson 11 社会構成 Lifetime employment or career changes?	☐ 話題 終身雇用と転職：終身雇用と転職の比較について、オンラインでやり取りされる生徒同士のやり取りを読んで、現状や傾向を理解する。	☐ 表現 可能性 (Probability)：可能性を表す表現を理解し、場面や状況、目的に応じた適切な文を組み立てる。 ☐ 論理 パラグラフ [書くこと]：日本の終身雇用と転職について、どちらの立場を支持するかの意見を理由や詳細、具体例などとともに、論理的な構成や展開を工夫して書いて伝える。	☐ 表現 可能性 (Probability)：可能性を表す表現を理解し、場面や状況、目的に応じた適切な文を組み立てようとしている。 ☐ 論理 パラグラフ [書くこと]：日本の終身雇用と転職について、どちらの立場を支持するかの意見を理由や詳細、具体例などとともに、論理的な構成や展開を工夫して書いて伝えようとしている。
	Lesson 12 社会構成 Diversity in the workplace	☐ 話題 職場の多様性：テレビ番組のジャーナリストが多様性の促進について話すのを聞いて、日本の職場で起こり得る多様性と現状を理解する。	☐ 表現 情報の追加 (Further Information)：情報の追加を表す表現を理解し、場面や状況、目的に応じた適切な文を組み立てる。 ☐ 論理 パラグラフ [書くこと]：社会の多様性について、どのような場所で求められ、どのように促進するのかという点を含めて、自分の考えを理由や詳細、具体例などとともに、論理的な構成や展開を工夫して書いて伝える。	☐ 表現 情報の追加 (Further Information)：情報の追加を表す表現を理解し、場面や状況、目的に応じた適切な文を組み立てようとしている。 ☐ 論理 パラグラフ [書くこと]：社会の多様性について、どのような場所で求められ、どのように促進するのかという点を含めて、自分の考えを理由や詳細、具体例などとともに、論理的な構成や展開を工夫して書いて伝えようとしている。
3 学 期	特別時間割授業	☐ 日本語の内容をよく理解し、日本語→平易な日本語へ変換し、英訳しやすい手立てをとることができる。	☐ 各大学の英訳問題に対応できる英作文力をつける。 自由英作文では自分の主張、考えを的確な英文で表現できる。	☐ 各大学の英訳問題に対応できる英作文力をつけようとしている。 自由英作文では自分の主張、考えを的確な英文で表現しようとしている。